

# 相良村 橋梁個別施設計画

51橋(木綿葉大橋は除く(錦町が計画策定))

令和7年3月【改定】

相良村 建設課

8.1 橋梁個別施設設計画表

○: 積極的な活用
△: 活用の検討

Table with columns: 橋梁台帳番号, 橋梁名, 路線名, 橋長, 幅員, 種別, 建設年度, 供用年数, 2024年度までの実績 (過去), 2025年度以降の予定 (50年間の計画予定), 対策費用 (万円), 講ずる措置の内容. The table lists various bridges and their maintenance schedules from 2018 to 2074.







8.2 橋梁個別施設計画(一覧表)

別添の別紙(一覧表)  
【更新年月日:令和7年2月28日】

橋梁台帳番号	個別施設整理番号	フリガナ橋梁名	措置記録				現時点での最小限の補修内容	最小限の優先順位		
			実施年月日	内容		対策費用(万円)			再判定実施年月日	再判定区分
				工程	概要					
1	0001-0264-01	ウバノ橋						伸縮シール材補修・支承防錆・橋面防水	7位	
3	0003-0111-01	トノシロ橋						詳細調査・支承防錆・伸縮取替え・防護柵取替え	7位	
4	0004-0111-02	エトノ橋						排水管のやり替え	16位	
5	0005-0110-01	ウバノ橋	2024年度	補修工事	断面修復・表面含浸・水切り・橋面防水・底張	290				
6	0006-0110-02	ウバノ橋								
7	0007-0247-01	ウバノ橋						伸縮取替え	16位	
8	0008-0247-02	ウバノ橋						防護柵設置工	16位	
9	0009-0247-03	ウバノ橋	2024年度	補修工事	断面修復・表面含浸・水切り・防護柵・橋面防水・底張	560				
11	0011-0108-01	ウバノ橋						開路調査・橋面補修	12位	
12	0012-0108-02	ウバノ橋						排水管のやり替え	16位	
13	0013-0108-03	ウバノ橋						支承防錆	7位	
15	0015-0253-01	ウバノ橋	2024年度	補修工事	断面修復・表面含浸・水切り・防護柵・橋面防水・底張	550				
16	0016-0245-01	ウバノ橋								
17	0017-0242-01	ウバノ橋						伸縮取替え・支承防錆・橋面防水・防護柵取替え・排水管やり替え・洗車対策	4位	
18	0018-0107-01	ウバノ橋								
19	0019-0240-01	ウバノ橋	2014年度	上下部工補修工事 耐震補強工事	断面修復工・支承防錆・伸縮装置 落橋防止装置	不明				
20	0020-0261-01	ウバノ橋						開路調査・橋面補修	12位	
21	0021-0302-01	ウバノ橋								
22	0022-0105-01	ウバノ橋								
23	0023-0237-01	ウバノ橋	2015年度	上下部工補修工事 耐震補強工事	断面修復工・支承防錆・伸縮装置・橋面防水・防護柵取替え 落橋防止装置	不明				
25	0025-0007-01	ウバノ橋								
26	0026-0223-01	ウバノ橋						水切り工	24位	
27	0027-0223-02	ウバノ橋								
28	0028-0008-01	ウバノ橋								
29	0029-0008-02	ウバノ橋						塗装取替え・支承防錆・伸縮取替え	1位	
30	0030-0008-03	ウバノ橋								
31	0031-0008-04	ウバノ橋								
32	0032-0008-05	ウバノ橋								
33	0033-0008-06	ウバノ橋						塗装取替え・支承防錆・伸縮取替え	7位	
34	0034-0008-07	ウバノ橋						詳細調査・ひびわれ補修・断面修復	6位	
35	0035-0008-08	ウバノ橋						橋面補修	12位	
36	0036-0228-01	ウバノ橋								
37	0037-0006-01	ウバノ橋						橋面補修・排水管やり替え	16位	
39	0039-0215-01	ウバノ橋	2024年度 ~2025年度	橋面補修工事 上下部工補修工事	伸縮装置・橋面防水・舗装 防護柵取替え・断面修復・ひびわれ注入・表面含浸・排水施設	4,300 (2,500)		措置中		
42	0042-0101-01	ウバノ橋								
43	0043-0101-02	ウバノ橋	2018年度	上下部工補修工事 耐震補強工事	橋面防水・伸縮装置・排水施設・ひびわれ補修・断面修復・表面含浸・橋梁塗装 落橋防止	6,800		ゴム支承補修・排水管やり替え	15位	
45	0045-0109-01	ウバノ橋						橋脚部断面修復・橋面防水	16位	
46	0046-0249-01	ウバノ橋								
47	0047-0290-01	ウバノ橋						排水管やり替え	16位	
48	0048-0291-01	ウバノ橋								
49	0049-0297-01	ウバノ橋								
50	0050-0298-03	ウバノ橋	2024年度	基礎復旧工事	基礎杭復旧(発泡モルタル充填)	1,500				
51	0051-0299-01	ウバノ橋	1989年度	塗装取替え工事	塗装履歴表で材質の塗装取替えを確認	不明		塗装取替え・支承防錆・橋面防水・表面含浸等	2位	
52	0052-0299-02	ウバノ橋						ひびわれ補修	23位	
53	0053-0299-03	ウバノ橋						支承防錆・伸縮シール材補修・目取取替え・断面修復	5位	
54	0054-0299-04	ウバノ橋						断面修復	25位	
55	0055-0299-05	ウバノ橋								
56	0056-0299-06	ウバノ橋						伸縮シール材補修・支承防錆	7位	
57	0057-0301-01	ウバノ橋								
58	0058-0304-01	ウバノ橋								
59	0059-0305-01	ウバノ橋						支承防錆・ひびわれ補修	3位	



橋梁台帳番号	1			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0001-0264-01	起点側の経度	32° 20' 45.3"	橋梁ID	32.34592, 130.83650
		起点側の緯度	130° 50' 11.4"		
路線名	椎葉線	緊急輸送道路	その他	カナ名	シハパシ
路線番号(等級)	264(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	椎葉橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	0.03km	建設年度	1990年3月
供用年数	35年	種別	PC箱橋	型式	連続ポステン箱桁
適用示方書	S55道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	椎葉谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	253.0m (251.8m)		幅員(車道幅員)	6.2m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	4径間連続ポステン箱桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎・場所打杭	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	椎葉線・野原椎葉線は、椎葉集落へのアクセス道路(旧道)が川辺川建設に伴い水没するため、代替路として九州地方整備局が整備した道路・橋梁であり、迂回路がない。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年1月	点検方法	橋梁点検車 特殊高所技術	点検延べ日数	8.0日
	調査結果	上部工(箱内含む)は、軽微な損傷が確認でき、橋軸方向のひびわれは予防保全の観点から橋面防水・ひびわれ注入・表面含浸による補修を行う方が望ましい。また、鋼製支承は軽微な腐食が生じており機会を見て支承防錆を行う方が望ましい。				
	橋梁の健全度	63.64点	箱桁内の頂版、横桁に無数のひびわれ及び橋脚にひびわれが確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	コンクリートの初期の乾燥収縮・自己収縮および支承部は滞水による腐食が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	14位 / 51橋
	内容	上部工Co・鋼製支承に損傷がありかつ迂回路がない橋梁規模が大きい橋梁であるため、予防保全の観点・橋梁規模から補修が必要である。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 10位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	—					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	485					485				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

橋梁台帳番号	3			施設管理者 (架設者)	相良村 (多良木営林署)
個別施設整理番号	0003-0111-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 21' 22.8" 130° 49' 32.8"	橋梁ID	32.35634, 130.82578
路線名	野原椎葉線	緊急輸送道路	その他	カナ名	トシバシ
路線番号(等級)	111(2級)	代替路の有無	無	橋梁名	とどしり橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	1.4km	建設年度	1981年8月
供用年数	43年	種別	鋼H橋・PCスラブ橋	型式	非合成I桁(耐候性) ・プレテンスラブ桁
適用示方書	S47道示・H8道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	椎葉谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.4m(11.0m)		幅員(車道幅員)	6.6m(5.6m)
	施設の構造等	上部工型式	非合成I桁(耐候性)・プレテンPC単純スラブ桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	SMA50, SMA41	塗装使用の有無	無(耐候性)
		支承形式	ゴム支承・鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	椎葉線・野原椎葉線は、椎葉集落へのアクセス道路(旧道)が川辺川建設に伴い水没するため、代替路として九州地方整備局が整備した道路・橋梁であり、迂回路がない。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	全体的に腐食が顕在化してきているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。				
	橋梁の健全度	76.41点	診断区分	主桁・横桁・線支承の腐食、橋台のうちが確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。		
	II: 予防保全段階					
劣化原因	伸縮からの漏水・経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	14位 / 51橋
	内容	鋼桁・線支承の腐食が顕在化しているため、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、橋梁規模が小さいため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		8位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		36					36			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	4			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0004-0111-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 21' 21.3" 130° 49' 18.0"	橋梁ID	32.35592, 130.82167
路線名	野原椎葉線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ノハヅリノエ
路線番号(等級)	111(2級)	代替路の有無	無	橋梁名	榎木谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	1.8km	建設年度	1997年4月
供用年数	27年	種別	鋼H橋	型式	非合成I桁(耐候性)
適用示方書	H6道示	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	椎葉谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	19.0m (17.94m)		幅員(車道幅員)	8.5m (7.3m)
	施設の構造等	上部工型式	単純非合成I桁(耐候性)			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	SMA490, SMA400	塗装使用の有無	無(耐候性)
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	椎葉線・野原椎葉線は、椎葉集落へのアクセス道路(旧道)が川辺川建設に伴い水没するため、代替路として九州地方整備局が整備した道路・橋梁であり、迂回路がない。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	損傷は全体的に軽微であるが、破損した排水管のみ補修した方が良い。(伸縮装置は機械を見て補修)				
	橋梁の健全度	75.56点	診断区分	II: 予防保全段階		
	劣化原因	伸縮からの漏水による滞水およびR2年7月豪雨による破損が原因である。				
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	14位 / 51橋
	内容	鋼桁・支承に軽微な腐食がありかつ迂回路がない橋梁規模が大きい橋梁であるため、予防保全の観点から塗装塗替えが必要である。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		11位 / 51橋
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	53					53				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考



橋梁台帳番号	5			施設管理者 (架設者)	相良村 (多良木営林署)
個別施設整理番号	0005-0110-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 40.7" 130° 49' 33.7"	橋梁ID	32. 32797, 130. 82603
路線名	深水山口線	緊急輸送道路	その他	カナ名	コニガニハシ
路線番号(等級)	110(2級)	代替路の有無	無	橋梁名	小谷谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	1.9km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋・PC橋	型式	RC床版・PC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	小谷谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.6m(4.75m)		幅員(車道幅員)	6.1m(5.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版・PC単純床版			直橋	
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	-
			支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
		橋台工型式	石積橋台・ブロック積橋台		基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	深水山口線・小河内線は、迂回路がない一本道の山道が6km程度続く路線であり、小谷谷橋は起点から1.9km付近の橋梁である。本線は、生活道の他に木材の運搬に使用されている。						
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日	
	調査結果	現時点では旧橋の床版補修・橋面防水・石積橋台・基礎洗堀の対策が必要と考える。					
	橋梁の健全度	44.65点	主構(床版)に広範囲の剥離、石積橋台・ブロック積橋台が確認でき、さらに石積橋台はR2豪雨により洗堀され、石積橋台最下部の石がはずれているため、早期に措置を講ずべき状態と判断する。				
	劣化原因	R2年7月豪雨による基礎洗堀・中性化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋	
	内容	2023年度に補修工事を行ったため、一定期間は定期点検で状態を把握するのみとする。					
	実施予定時期	補修直後のため、当分は予定しない。					
	施設の優先度	-	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		44位 / 51橋	
	対策費用(概算)	2023年度に補修済みのため、優先度は「-」					
管理方法	補修直後であるが、今後の長寿命化対策として、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。						

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用(万円)		15					15			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	6	施設管理者 (架設者)		相良村	
個別施設整理番号	0006-0110-02	起点側の経度	32° 19' 33.5"	橋梁ID	32.32596, 130.81841
		起点側の緯度	130° 49' 06.3"		
路線名	深水山口線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヤマカハシ
路線番号(等級)	110(2級)	代替路の有無	無	橋梁名	山口橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.7km	建設年度	1995年3月
供用年数	30年	種別	現木ックス	型式	現場打ちボックス
適用示方書	S61標準設計	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	山口谷川支川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.5m (3.9m)		幅員(車道幅員)	5.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ち木ックスカルバート3900×2500			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的利用実態等	深水山口線・小河内線は、迂回路がない一本道の山道が6km程度続く路線であり、山口橋は起点から2.7km付近の橋梁である。本線は、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	96.66点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	診断区分	I:健全				
劣化原因	-					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	45位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		38位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度(2025年)	令和8年度(2026年)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)	令和12年度(2030年)	令和13年度(2031年)	令和14年度(2032年)	令和15年度(2033年)	令和16年度(2034年)
対策費用(万円)		11					11			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

橋梁台帳番号	7			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0007-0247-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 40.1" 130° 48' 48.8"	橋梁ID	32. 32780, 130. 81355
路線名	小河内線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヤマクチニコウカン
路線番号(等級)	247(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	山口谷一号橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	0. 6km	建設年度	1994年9月
供用年数	30年	種別	PC中空橋	型式	ポステン中空床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	山口谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	14. 1m (13. 3m)		幅員(車道幅員)	5. 2m (4. 0m)
	施設の構造等	上部工型式	ポステンPC単純中空床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	深水山口線・小河内線は、迂回路がない一本道の山道が6km程度続く路線であり、山口谷一号橋は起点から3. 3km付近の橋梁である。本線は、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1. 0日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	99. 48点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I : 健全				
劣化原因	-					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	40位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		30位 / 51橋
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		35					35			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										



橋梁台帳番号	8			施設管理者 (架設者)	相良村 (多良木営林署)
個別施設整理番号	0008-0247-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 45.5" 130° 48' 32.7"	橋梁ID	32. 32929, 130. 80907
路線名	小河内線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヤマガチニコウカン
路線番号(等級)	247(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	山口谷二号橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	1.4km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	山口谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0m (4.5m)		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	深水山口線・小河内線は、迂回路がない一本道の山道が6km程度続く路線であり、山口谷二号橋は起点から4.1km付近の橋梁である。本線は、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、Co防護柵のみ対策を検討する必要があると考える。				
	橋梁の健全度	82.06点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	劣化原因	I:健全		中性化が原因である。		
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		15位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		29					29			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	9			施設管理者 (架設者)	相良村 (多良木営林署)
個別施設整理番号	0009-0247-03	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 58.5" 130° 48' 17.5"	橋梁ID	32.33291, 130.80485
路線名	小河内線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヤマガチニコウカシ
路線番号(等級)	247(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	山口谷三号橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.4km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	山口谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.4m (5.15m)		幅員(車道幅員)	4.0m (3.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	深水山口線・小河内線は、迂回路がない一本道の山道が6km程度続く路線であり、山口谷三号橋は起点から5.1km付近の橋梁である。本線は、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	現時点では基礎洗堀の対策および防護柵設置について検討する必要があると考える。				
	橋梁の健全度	42.95点	診断区分	主構(床版)に鉄筋露出、橋台基礎に洗堀が確認できるため、早期に措置を講ずべき状態と判断する。		
	劣化原因	R2年7月豪雨による基礎洗堀・中性化が原因である。				
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	2023年度に補修工事を行ったため、一定期間は定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	補修直後のため、当分は予定しない。				
	施設の優先度	-	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		44位 / 51橋
	対策費用(概算)	2023年度に補修済みのため、優先度は「-」				
管理方法	補修直後であるが、今後の長寿命化対策として、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		29					29			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	11			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0011-0108-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 13.0" 130° 50' 20.0"	橋梁ID	32. 32027, 130. 83889
路線名	初神野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ナカノコバシ
路線番号(等級)	108(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	中尾谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.0km	建設年度	1975年3月
供用年数	50年	種別	PCI橋	型式	プレテンI桁
適用示方書	S47道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	中尾谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m (10.0m)		幅員(車道幅員)	7.3m (6.5m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純I桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	ゴム製	
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、中尾谷橋は川辺川に注ぐ中尾谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は16km程度に及ぶ。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	現時点では下部工の補修は必要ないが、間詰Coの調査・橋面Coのやり替えが必要であると考え。				
	橋梁の健全度	76.96点	診断区分	間詰Coにさび汁を伴う遊離石灰、Co舗装に著しい損傷が確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。		
	劣化原因	II: 予防保全段階		橋面Co舗装の衝突荷重による損傷が原因である。		

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	14位 / 51橋
	内容	間詰Coの損傷・橋面Coの損傷があり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、橋梁規模が小さいため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		12位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		36					36			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考



橋梁台帳番号	12			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0012-0108-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 43.5" 130° 50' 22.1"	橋梁ID	32. 32875, 130. 83947
路線名	初神野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヲカハシ
路線番号(等級)	108(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	深水橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	3.0km	建設年度	1975年1月
供用年数	50年	種別	鋼H橋	型式	非合成I桁
適用示方書	S47道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	山口谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.0m(15.6m)		幅員(車道幅員)	4.3m(3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	単純非合成I桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	初神野原線の深水橋は、川辺川に注ぐ山口谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は3km程度に及ぶ。また、本線は川辺川ダム建設時の資材運搬用として九州地方整備局が整備する前の旧道である。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	損傷は全体的に軽微であるが、腐食した排水管のみ補修した方が良い。(その他は不要)				
	橋梁の健全度	83.54点	部分的に軽微な鋼部材の腐食、支承の劣化が確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態と判断する。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	⑤	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。なお、本橋は川辺川ダム建設再開に伴い、集約化・撤去の検討が必要である。				
	実施予定時期	集約化・撤去の候補となっているため、実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		47位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	集約化・撤去の候補としているが、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	39					39				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

橋梁台帳番号	13			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0013-0108-03	起点側の経度 起点側の緯度	32° 20' 26.1" 130° 50' 26.3"	橋梁ID	32. 34059, 130. 84065
路線名	初神野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ハ52ゴウキョウ
路線番号(等級)	108(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	野原2号橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	4. 5km	建設年度	1979年3月
供用年数	46年	種別	鋼H橋	型式	非合成I桁
適用示方書	S47道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	椎葉谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12. 5m (12. 0m)		幅員(車道幅員)	5. 0m (4. 0m)
	施設の構造等	上部工型式	単純非合成I桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	SM50YA, SS41	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	初神野原線の野原2号橋は、川辺川ダム建設時の資材運搬用として九州地方整備局が架設した橋梁であり、通常時は使用されていない橋梁である。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1. 0日
	調査結果	全体的に腐食が顕在化してきているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましいが、建設がはじまった川辺川ダム内に位置する。				
	橋梁の健全度	86. 53点	線支承に経年劣化による腐食が確認できるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	経年劣化が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	⑤	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	鋼桁・支承の腐食が顕在化しており、予防保全の観点から塗装塗替えが必要である。ただし、本橋は川辺川ダム建設再開に伴いダム内に位置することになるため、将来的な集約化・撤去を踏まえ検討が必要である。				
	実施予定時期	集約化・撤去の候補となっているため、実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		50位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	集約化・撤去の候補としているが、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		34					34			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	15	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0015-0253-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 18' 32.6" 130° 49' 50.1"	橋梁ID 32.30907, 130.83057
路線名	小柏線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ハツカミダニバシ
路線番号(等級)	253(その他)	代替路の有無	無	橋梁名 初神谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	0.01km	建設年度 1983年3月
供用年数	42年	種別	RC橋	型式 RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件 初神谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.1m (3.8m)		幅員(車道幅員)	4.4m (3.9m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			斜橋	
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	-
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎		
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス			
施設の目的 利用実態等	小柏線の初神谷橋は、川辺川から2km程度山の中へ入った所に位置する橋梁であり、上流500mに一軒のみ確認したが、迂回路がない。						
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子		点検延べ日数	0.5日
	調査結果	床版(主構)に鉄筋露出、橋面に滞水、基礎洗堀が確認でき、特に基礎洗堀は早急な対策が必要と考える。					
	橋梁の健全度	37.92点	診断区分	主構(床版)に鉄筋露出、橋台基礎に洗堀が確認できるため、早期に措置を講ずべき状態と判断する。			
	劣化原因	R2年7月豪雨による基礎洗堀・中性化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋	
	内容	2023年度に補修工事を行ったため、一定期間は定期点検で状態を把握するのみとする。					
	実施予定時期	補修直後のため、当分は予定しない。					
	施設の優先度	-	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位			44位 / 51橋
	対策費用(概算)	2023年度に補修済みのため、優先度は「-」					
管理方法	補修直後であるが、今後の長寿命化対策として、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。						

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		13					13			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考



橋梁台帳番号	16	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0016-0245-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 09.9" 130° 50' 42.1"	橋梁ID 32.31942, 130.84503
路線名	大谷袴谷線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ハカマゴニバシ
路線番号(等級)	245(その他)	代替路の有無	有	橋梁名 袴谷橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.65km	建設年度 1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式 RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件 袴谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.4m(5.0m)		幅員(車道幅員)	6.7m(5.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	エラス	
施設の目的 利用実態等	大谷袴谷線の袴谷橋は、国道445号から袴谷へ200m程度入った橋梁であり、周辺には田畑があるため農作期には頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	74.78点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	床版の全体的な滞水が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 20位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		15					15			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	17			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0017-0242-01	起点側の経度	32° 17' 41.2"	橋梁ID	32. 29478, 130. 84550
		起点側の緯度	130° 50' 43.8"		
路線名	六藤上平線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ロウマハシ
路線番号(等級)	242(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	六藤橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.03km	建設年度	1965年5月
供用年数	59年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S31道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	84.7m (82.5m)		幅員(車道幅員)	4.7m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	鋼製		
施設の目的 利用実態等	六藤上平線の六藤橋は、川辺川を渡河する橋梁であり、相良村の中で古い方(供用59年)の橋梁である。また、六藤橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁である。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	3.0日
	調査結果	主桁の鉄筋露出、鋼製支承の腐食、伸縮装置の異常が確認できるため、予防保全の観点・橋梁規模からも機械を見て補修する必要がある。				
	橋梁の健全度	38.72点	G3主桁の剝離・鉄筋露出、線支承の腐食、P2橋脚の洗掘、遊間の異常、床版には漏水・遊離石灰が発生している。損傷は、全体的に軽微であるが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	伸縮からの漏水およびR2年7月豪雨が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	6位 / 51橋
	内容	主桁Co・鋼製支承・伸縮装置に損傷がありかつ川辺川を渡河する橋梁であるため、予防保全の観点・橋梁規模から補修が必要である。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 4位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	223					223				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

橋梁台帳番号	18			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0018-0107-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 17' 22.1" 130° 50' 55.8"	橋梁ID	32. 28948, 130. 84882
路線名	谷尻晴山線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ハヤマダニハシ
路線番号(等級)	107(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	晴山谷橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.25km	建設年度	1975年12月
供用年数	49年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S39RC道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	晴山谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.3m(7.8m)		幅員(車道幅員)	5.9m(5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	-			伸縮装置形式	エラス
施設の目的 利用実態等	谷尻晴山線の晴山谷橋は、川辺川に注ぐ晴山谷川を渡河する橋梁であり、晴山集落と国道445号を結ぶ重要な橋梁である。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	92.40点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	診断区分	I:健全				
	劣化原因	中性化が原因と思われるが、損傷は軽微である。				

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		20位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用(万円)		32					32			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										



橋梁台帳番号	19			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0019-0240-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 17' 05.7" 130° 50' 42.7"	橋梁ID	32. 28492, 130. 84519
路線名	上下坂平川線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヒカカハシ
路線番号(等級)	240(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	平川橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.17km	建設年度	1967年5月
供用年数	57年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S31道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	137.9m (133.65m)		幅員(車道幅員)	3.7m (3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	5径間単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	柱式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製・鋼製		
施設の目的 利用実態等	上下坂平川線の平川橋は、川辺川を渡河する橋梁であり、相良村の中で古い方(供用57年)の橋梁である。また、平川橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁である。					
施設の状態等の概要	点検日	2022年12月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	3.5日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。また、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	80.97点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	2014年度に上下部工補修・耐震補強工事済みであり、損傷は軽微である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	5位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 31位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)			239					239		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考

橋梁台帳番号	20			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0020-0261-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 27.0" 130° 50' 06.5"	橋梁ID	32.27418, 130.83513
路線名	廻線	緊急輸送道路	その他	カナ名	メグリダコバシ
路線番号(等級)	261(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	廻谷橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.18km	建設年度	1990年3月
供用年数	35年	種別	PCI橋	型式	プレテンI桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	白木谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.0m (10.6m)		幅員(車道幅員)	3.5m (3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純I桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	廻線の廻谷橋は、白木谷橋の上流100m程度に位置する橋梁であり、幅員が狭く交通量も少ない橋梁である。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	現時点では下部工の補修は必要ないが、間詰Coの調査・橋面Coのやり替え、橋面防水が必要であると考えられる。				
	橋梁の健全度	85.87点	間詰Coに遊離石灰、防護柵に著しい損傷が確認できるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	橋面Co舗装のひびわれが原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	⑤	橋梁の順位	41位 / 51橋
	内容	間詰Coの調査・橋面Coのやり替え、橋面防水が必要であるが、下流に代替橋梁が存在するため、現時点では定期点検で状態を把握するのみとし、集約化・撤去を検討する。				
	実施予定時期	集約化・撤去の候補となっているため、実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		48位 / 51橋
		集約化・撤去の候補となっているため、優先度は「低」				
対策費用(概算)	-					
管理方法	集約化・撤去の候補としているが、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		15					15			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	21			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0021-0302-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 19.9" 130° 50' 16.6"	橋梁ID	32.27219, 130.83794
路線名	小森廻線	緊急輸送道路	その他	カナ名	カンノパン
路線番号(等級)	302(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	観音橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.07km	建設年度	2015年1月
供用年数	10年	種別	PCT橋	型式	連結ポステンT桁
適用示方書	H14道示	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	121.0m (117.4m)		幅員(車道幅員)	8.5m (7.3m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間連結ポステンT桁			斜橋(81°)
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	車道:ゴム製 歩道:鋼製		
施設の目的 利用実態等	小森廻線の観音橋は、川辺川を渡河する橋梁であり、相良村の中で最も新しい橋梁である。また、観音橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁である。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2022年12月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	3.0日
	調査結果	軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。ただし、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	88.60点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	2014年度に架設した相良村で最も新しい橋梁であり、損傷は軽微である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 35位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)			279					279		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考										

橋梁台帳番号	22			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0022-0105-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 16.9" 130° 50' 21.5"	橋梁ID	32.27136.130.83929
路線名	小森新深田線	緊急輸送道路	その他	カナ名	コリハシ
路線番号(等級)	105(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	小森橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.08km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	川村飛行場用水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.4m(5.1m)		幅員(車道幅員)	6.7m(6.1m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			斜橋	
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	-
			支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	小森新深田線の小森橋は、山の中腹沿いを流れる川村飛行場用水路用のRC床版橋であり、通常時の交通量は少ないものの周辺には田畑があるため、農作期には頻繁に利用されている。						
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日	
	調査結果	床版(主構)に鉄筋露出が確認されるが、軽微な損傷のため、現時点では補修は不要と考えられる。					
	橋梁の健全度	93.30点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。				
	診断区分	I:健全					
	劣化原因	中性化が原因と思われるが、損傷は軽微である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	27位 / 51橋	
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。					
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 23位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」				
	対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。						

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		16					16			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										



橋梁台帳番号	23			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0023-0237-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 02.8" 130° 49' 44.6"	橋梁ID	32. 26744, 130. 82906
路線名	高尾野上川下線	緊急輸送道路	その他	カナ名	タカノハシ
路線番号(等級)	237(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	高尾野橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0. 14km	建設年度	1964年9月
供用年数	60年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S31道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	90. 2m (88. 05m)		幅員(車道幅員)	3. 7m (3. 0m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	高尾野上川下線の高尾野橋は、川辺川を渡河する橋梁であり、相良村の中で最も古い橋梁(供用60年)である。また、高尾野橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁である。					
施設の状態等の概要	点検日	2022年12月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	3. 0日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	81. 08点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	2015年度に上下部工補修・耐震補強工事済みであり、損傷は軽微である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	6位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 32位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)			180					180		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考

橋梁台帳番号	25	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0025-0007-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 15' 07.9" 130° 49' 05.4"	橋梁ID 32. 25219, 130. 81818
路線名	上園高原線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ウヰソソバシ
路線番号(等級)	7(1級)	代替路の有無	有	橋梁名 上園橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.12km	建設年度 1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式 RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件 川村飛行場用水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.2m (3.0m)		幅員(車道幅員)	5.5m (5.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	上園高原線の上園橋は、山の中腹沿いを流れる川村飛行場用水路用のRC床版橋であり、通常時の交通量は少ないものの周辺には田畑があるため、農作期には頻りに利用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	床版(主構)は、剥離・鉄筋露出、うき、漏水・遊離石灰、漏水・滞水、A1橋台に剥離・鉄筋露出、舗装はA1側に段差32mmが生じているが、軽微な損傷のため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	89.05点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	中性化が原因と思われるが、損傷は軽微である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 23位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		13					13			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	26			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0026-0223-01	起点側の経度	32° 14' 31.0"	橋梁ID	32.24196, 130.81741
		起点側の緯度	130° 49' 02.7"		
路線名	別府原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ビュウゲンキョウ
路線番号(等級)	223(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	別府第二橋
施設の所在地	相良村深水	起点からの距離	0.00km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	別府原排水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.5m (2.3m)		幅員(車道幅員)	7.5m (6.5m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	不明		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	不明
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	不明	
施設の目的 利用実態等	別府原線の別府第二橋は、球磨広域農道(通称:フルーティールード)との交差点付近に位置するRC床版橋であり、周辺には田畑があるため、農作期には頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	床版(主構)に滞水による剥離・鉄筋露出、漏水遊離石灰、舗装は経年劣化によるひびわれが全体的に生じている程度であり、現時点では補修は必要ないが、床版部の滞水対策のみを検討すると良い。				
	橋梁の健全度	78.37点	主構(床版)に漏水・滞水が確認できるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	中性化・経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 13位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		13					13			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	27			施設管理者 (架設者)	相良村 (熊本県農政部)
個別施設整理番号	0027-0223-02	起点側の経度	32° 14' 51.1"	橋梁ID	32.24753, 130.81742
		起点側の緯度	130° 49' 02.7"		
路線名	別府原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	サトウパシ
路線番号(等級)	223(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	佐土原橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.65km	建設年度	2009年4月
供用年数	15年	種別	ブロック	型式	プレキャストボックス
適用示方書	H11カルバート	橋格(設計荷重)	T-25	橋下条件	高原地区排水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.2m (2.8m)		幅員(車道幅員)	5.5m (4.5m)
	施設の構造等	上部工型式	プレキャストボックスカルバート2800×1500			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	別府原線の佐土原橋は、球磨広域農道(通称:フルーティロード)との交差点付近に位置するボックスカルバートであり、周辺には田畑があるため、農作期には頻りに利用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年1月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	ボックスの側壁にうきが2箇所、製品の目地部からの漏水が1箇所確認できる程度で、全体的に健全であり、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	98.85点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	製品据付時・目地の劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	49位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 37位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	11					11				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										



橋梁台帳番号	28			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0028-0008-01	起点側の経度	32° 15' 37.1"	橋梁ID	32. 26031, 130. 81567
		起点側の緯度	130° 48' 56.4"		
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名	アマダニバシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名	雨谷橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.50km	建設年度	1981年3月
供用年数	44年	種別	PCI橋	型式	プレテンI桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	雨谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.4m (11.0m)		幅員(車道幅員)	5.8m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純I桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、雨谷橋は川辺川に注ぐ雨谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は4km程度に及ぶ。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	100.00点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	I:健全					
劣化原因	-					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	36位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		26位 / 51橋
		橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」				
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		18					18			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	29	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0029-0008-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 15' 52.7" 130° 49' 07.1"	橋梁ID 32. 26464, 130. 81864
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名 カインダニパシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名 黒石谷橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	1.1km	建設年度 1973年3月
供用年数	52年	種別	鋼H橋	型式 非合成I桁
適用示方書	S47道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件 芝落谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.0m (14.6m)		幅員(車道幅員)	5.8m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	単純非合成I桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、雨谷橋は川辺川に注ぐ芝落谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は4km程度に及ぶ。					
施設の 状態 等の 概要	点検日	2021年1月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	桁・線支承に軽微な腐食、主桁の下フランジ上面に原因不明の孔食(もしくは欠損)、F11Tボルトの使用が確認できるため、今後も注視する必要がある。また、路面は滞水がひどいため、排水装置の清掃もしくは舗装打替えが必要である。したがって、予防保全の観点から機械を見て補修する必要がある。				
	橋梁の健全度	66.21点	鋼部材全体に軽微な腐食、床版の剥離鉄筋露出、支承部の土砂詰りを確認した。損傷は、全体的に軽微であるが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	路面の滞水および経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	鋼桁・支承に腐食・孔食等があり、予防保全の観点から塗装塗替えが必要である。また、路面の滞水・排水施設の土砂詰りも同時に補修が必要である。				
	実施予定時期	補修設計・工事は、5年以内を目標とする。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 1位 / 51橋 橋梁の主要部材に損傷があることから優先度は「高」			
対策費用(概算)	2,963 万円					
管理方法	長寿命化対策として、計画期間内に補修設計・工事を実施した後に定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	665	2,298				26				
対策の内容・実施時期	定期点検 補修設計	補修工事				定期点検				

備 考

橋梁台帳番号	30	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0030-0008-03	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 07.4" 130° 49' 45.3"	橋梁ID 32.26872, 130.82926
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ハジガニバシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名 橋谷橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	2.2km	建設年度 1984年3月
供用年数	41年	種別	RC橋	型式 RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件 橋谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m (5.6m)		幅員(車道幅員)	6.0m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	エラス	
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、橋谷橋は川辺川に注ぐ橋谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は3km程度に及ぶ。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮については維持工事で対応するのが望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	76.94点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	床版の全体的な滞水が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	36位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 26位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		15					15			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	31			施設管理者 (架設者)	相良村 (熊本県)
個別施設整理番号	0031-0008-04	起点側の経度 起点側の緯度	32° 16' 25.0" 130° 50' 09.8"	橋梁ID	32. 27360, 130. 83606
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名	シキダニハシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名	白木谷橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	3.1km	建設年度	1989年3月
供用年数	36年	種別	PCI橋	型式	プレテンI桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	白木谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.9m (10.5m)		幅員(車道幅員)	6.4m (5.2m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純I桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、白木谷橋は川辺川に注ぐ白木谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は4km程度に及ぶ。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	97.32点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮・経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	36位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 26位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		19					19			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考



橋梁台帳番号	32	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0032-0008-05	起点側の経度 起点側の緯度	32° 17' 07.4" 130° 50' 33.3"	橋梁ID 32.28540, 130.84259
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ヒヨコガニバシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名 平川谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	4.6km	建設年度 2001年7月
供用年数	23年	種別	現木ックス	型式 現場打ちボックス
適用示方書	H12標準設計	橋格(設計荷重)	T-25	橋下条件 平川谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.0m(8.0m)		幅員(車道幅員)	7.0m(5.8m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ち木ックスカルバート8000×2200			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、平川谷橋は川辺川に注ぐ平川谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は4km程度に及ぶ。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	92.86点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	診断区分	I:健全				
劣化原因	床版の全体的な滞水が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	45位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 38位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用(万円)		16					16			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

橋梁台帳番号	33	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0033-0008-06	起点側の経度	32° 17' 40.0"	橋梁ID
		起点側の緯度	130° 50' 36.2"	32. 29444, 130. 84340
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名
				ウツウダニハシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	無	橋梁名
				六藤谷橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	6.0km	建設年度
				1984年3月
供用年数	41年	種別	鋼H橋	型式
				非合成I桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件
				六藤谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.0m (9.5m)		幅員(車道幅員)	3.6m (3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	単純非合成I桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式+石積橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、六藤谷橋は川辺川に注ぐ六藤谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は3km程度に及ぶ。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	線支承の腐食および他の部位も腐食が顕在化しているため、予防保全の観点から機械を見て補修する必要がある。				
	橋梁の健全度	77.32点	線支承に経年劣化による腐食が確認できるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	経年劣化が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	鋼桁・線支承の腐食が顕在化しているため、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、橋梁規模が小さいため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 9位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度(2025年)	令和8年度(2026年)	令和9年度(2027年)	令和10年度(2028年)	令和11年度(2029年)	令和12年度(2030年)	令和13年度(2031年)	令和14年度(2032年)	令和15年度(2033年)	令和16年度(2034年)
対策費用 (万円)		31					31			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

橋梁台帳番号	34			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0034-0008-07	起点側の経度	32° 17' 40.2"	橋梁ID	32. 29451, 130. 84409
		起点側の緯度	130° 50' 38.7"		
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ハツテソシヨシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	無	橋梁名	発電所橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	6.1km	建設年度	1984年3月
供用年数	41年	種別	RCT橋	型式	(連続)RC床版+RCT桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	余水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.0m (10.96m)		幅員(車道幅員)	3.6m (3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	2径間(連続)RC床版+RCT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	壁式橋脚			伸縮装置形式	不明	
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、発電所橋はJNC(株)川辺川発電所の余水路を渡河する橋梁であり、迂回路は3km程度に及ぶ。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	主桁のひびわれ・鉄筋露出、A2橋台のひびわれは、予防保全の観点から補修を検討するのが良いと考える。				
	橋梁の健全度	72.76点	主桁側面の上部にひびわれ0.5mm、桁端部に鉄筋露出、A2橋台に斜め方向のひびわれ1.0mm、P1橋脚上のCo防護柵に鉛直ひびわれ1.0mmが確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	中性化・経年劣化が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	主桁・A2橋台のひびわれ・鉄筋露出があり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、橋梁規模が小さいため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 6位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	—					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		31					31			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	35			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0035-0008-08	起点側の経度	32° 18' 16.4"	橋梁ID	32. 30454, 130. 84445
		起点側の緯度	130° 50' 40.0"		
路線名	永江瀬馳線	緊急輸送道路	その他	カナ名	セパセパシ
路線番号(等級)	8(1級)	代替路の有無	有	橋梁名	瀬馳橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	7.6km	建設年度	1984年3月
供用年数	41年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	初神谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.6m(10.0m)		幅員(車道幅員)	7.3m(6.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	-			伸縮装置形式	エラス
施設の目的 利用実態等	永江瀬馳線は、川辺川右岸を約8kmに渡り縦断する路線であり、瀬馳橋は川辺川に注ぐ初神谷川を渡河する橋梁であり、迂回路は3km程度に及ぶ。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	A1橋台のひびわれおよびCo舗装のひびわれは、予防保全の観点から補修を検討するのが良いと考える。				
	橋梁の健全度	75.68点	A1橋台のひびわれおよびCo舗装のひびわれは、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
	劣化原因	橋面Co舗装の衝突荷重による損傷・床版の全体的な滞水が原因である。				

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	36位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 13位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		36					36			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考



橋梁台帳番号	36	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0036-0228-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 15' 13.7" 130° 48' 38.7"	橋梁ID 32.25380, 130.81076
路線名	永江榎木谷線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ニジバシ
路線番号(等級)	228(その他)	代替路の有無	有	橋梁名 新層橋
施設の所在地	相良村川辺	起点からの距離	0.13km	建設年度 1995年3月
供用年数	30年	種別	現橋	型式 現場打ちボックス
適用示方書	S61標準設計	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件 新層谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.6m (5.0m)		幅員(車道幅員)	5.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ちボックスカルバート5000×3000			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	永江榎木谷線の新層橋は、新層谷川に架かる現場打ボックスであり、交通量は少ない。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	頂版・側壁には乾燥収縮による軽微な損傷が確認できるが、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	88.68点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	I:健全					
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	⑤	橋梁の順位	48位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。なお、本橋は迂回路が存在するため、集約化・撤去の候補とする。				
	実施予定時期	集約化・撤去の候補となっているため、実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		50位 / 51橋
対策費用(概算)	-					
管理方法	集約化・撤去の候補としているが、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		12					12			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	37	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0037-0006-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 14' 22.6" 130° 48' 38.7"	橋梁ID 32. 23960, 130. 81074
路線名	前田松馬場線	緊急輸送道路	その他	カナ名 カハラシ
路線番号(等級)	6(1級)	代替路の有無	有	橋梁名 相良橋
施設の所在地	相良村深水	起点からの距離	0.40km	建設年度 2000年1月
供用年数	25年	種別	PCT橋	型式 ポステンT桁
適用示方書	H6道示	橋格(設計荷重)	B活荷重	橋下条件 川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	87.5m (85.55m)		幅員(車道幅員)	13.5m (12.5m)
	施設の構造等	上部工型式	2径間単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	前田松馬場線の相良橋は、相良村深水と錦町を結ぶ橋梁であるが、交通量は少ない。また、相良橋は川辺川を渡河する橋梁であり、周辺には田畑があるため、農作期には頻りに利用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	3.0日
	調査結果	主桁・横桁・排水施設・落橋防止にR2洪水による損傷、伸縮部に20mm以上の段差、As舗装のクラック(ポットホール含む)等の軽微な損傷が散見されるが、損傷はいずれも軽微である。ただし、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	87.30点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	経年劣化・施工不良・R2年7月豪雨が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		23位 / 51橋
		橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」				
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		301					301			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	39			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0039-0215-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 14' 02.0" 130° 47' 58.1"	橋梁ID	32. 23388, 130. 79947
路線名	松葉新並木線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ミヨトパシ
路線番号(等級)	215(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	夫婦橋
施設の所在地	相良村深水	起点からの距離	0.12km	建設年度	1990年10月
供用年数	34年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	105.0m (102.4m)		幅員(車道幅員)	10.3m (9.3m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	車道:ゴム製 歩道:鋼製		
施設の目的 利用実態等	松葉新並木線の夫婦橋は、相良村役場と県道人吉水上線を結ぶ橋梁であり、朝夕の交通量は多い。また、夫婦橋は川辺川を渡河する橋梁であり、物資の輸送に基幹的な役割を果たしている。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	4.0日
	調査結果	上部工・下部工・防護柵・舗装・伸縮に軽微な損傷が散見されるが、損傷はいずれも軽微である。ただし、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	81.53点	床版に橋面からの漏水による遊離石灰、橋台・橋脚にひびわれが確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	施工時の鉄筋かぶり不足・橋面防水なし・経年劣化が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	1位 / 51橋
	内容	2024年度から補修工事(2025年度に完了予定)を行っているため、工事完了後の一定期間は定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	現在補修中のため、当分は予定しない。				
	施設の優先度	-	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		41位 / 51橋
		現在(2024年度)補修中のため、優先度は「-」				
対策費用(概算)	2,500万円					
管理方法	現在補修中であるが、今後の長寿命化対策として、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用(万円)	2,500	320					320			
対策の内容・実施時期	補修工事	定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	42	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0042-0101-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 12' 35.3" 130° 48' 02.0"	橋梁ID 32. 20980, 130. 80055
路線名	八ツ田井沢線	緊急輸送道路	その他	カナ名 ヤツタ井
路線番号(等級)	101(2級)	代替路の有無	有	橋梁名 八ツ田橋
施設の所在地	相良村柳瀬	起点からの距離	0.20km	建設年度 2004年3月
供用年数	21年	種別	現橋	型式 現場打ちボックス
適用示方書	H12標準設計	橋格(設計荷重)	T-25	橋下条件 道路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7m (3.0m)		幅員(車道幅員)	6.0m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ちボックスカルバート3000×3000			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	八ツ田井沢線は、人吉市と中球磨地域を結ぶ抜けど道的な役割を果たしており、朝夕の交通量は多い。また、八ツ田橋の橋下は道路(農耕車)が通っているが、現在は利用された形跡がない。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	頂版と側壁に乾燥収縮によるひびわれ確認でき、ボックス内はR2洪水の越水による土砂洗堀が確認できる。構造物本体には影響ないため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	90.65点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮・R2年7月豪雨が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	⑤	橋梁の順位	44位 / 51橋
	内容	頂版と側壁に乾燥収縮による軽微なひびわれ確認でき、ボックス内はR2洪水の越水による土砂洗堀が確認できる。ただし、ボックス内は現在利用された形跡がないため、集約化・撤去の候補とする。				
	実施予定時期	集約化・撤去の候補となっているため、実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 48位 / 51橋 集約化・撤去の候補となっているため、優先度は「低」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	集約化・撤去の候補としているが、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		11					11			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	43			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0043-0101-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 12' 34.7" 130° 48' 02.8"	橋梁ID	32. 20964, 130. 80078
路線名	八ツ田井沢線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ゴングンシ
路線番号(等級)	101(2級)	代替路の有無	有	橋梁名	権現橋
施設の所在地	相良村柳瀬	起点からの距離	0. 21km	建設年度	1976年3月
供用年数	49年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S50道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	189. 6m (187. 2m)		幅員(車道幅員)	5. 9m (5. 0m)
	施設の構造等	上部工型式	6径間単純ポステンT桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	鋼製		
施設の目的 利用実態等	八ツ田井沢線は、人吉市と中球磨地域を結ぶ抜けど的な役割を果たしており、朝夕の交通量は多い。また、権現橋は川辺川を渡河する橋梁であり、九州地方整備局が架設している。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	5. 0日
	調査結果	前回点検後に補修工事を行っており全体的に健全な状態に戻っていたが、令和2年7月豪雨の洪水により主桁補修箇所の欠損・下部工の表面被覆の損傷・排水管の破損・防護柵の変形が確認できたが、構造的な欠陥はなかった。また、補修工事では支承の補修を行っていないため、支承のさび止めを行う方が良い。				
	橋梁の健全度	59. 85点	前回点検後に、上下部工は補修が行われ健全な状態に戻っているが、ゴム支承に劣化が見られるため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II : 予防保全段階				
劣化原因	2018年度に補修工事が行われているが、R2(2020)年7月豪雨が原因で欠損・変形・破損等が発生している。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	4位 / 51橋
	内容	2018年度に補修工事が行われているが、R2(2020)年7月豪雨で欠損・変形・破損等が発生している。このため、主要部材に対して予防保全の観点から補修するのが望ましい。				
	実施予定時期	2018年度に補修工事が行われているため、三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 29位 / 51橋 2018年度に補修工事が行われたため、優先度は「低」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	354					354				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考



橋梁台帳番号	45	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0045-0109-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 18' 43.9" 130° 50' 51.3"	橋梁ID 32.31219, 130.84759
路線名	大谷初神線	緊急輸送道路	その他	カナ名 材カミパシ
路線番号(等級)	109(2級)	代替路の有無	有	橋梁名 大神橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	0.01km	建設年度 1994年6月
供用年数	30年	種別	PCT橋	型式 ポステンT桁
適用示方書	H2道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件 川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	99.2m(96.1m)		幅員(車道幅員)	8.0m(7.0m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間単純ポステンT桁			斜橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	車道:ゴム製 歩道:鋼製		
施設の目的 利用実態等	大谷初神線の大神橋は、川辺川を渡河する橋梁であり、供用30年の橋梁である。また、大神橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁である。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年12月	点検方法	橋梁点検車 ゴンドラ車	点検延べ日数	3.5日
	調査結果	現時点では橋脚の鉄筋露出・橋面防水のみ必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	72.43点	横桁に橋面からの漏水、橋脚に凍害と思われる鉄筋露出が確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II:予防保全段階				
劣化原因	橋面からの漏水・凍害・乾燥収縮等が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	橋脚の鉄筋露出・橋面防水のみ、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、現時点では損傷が軽微なため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 18位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		279					279			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	46			施設管理者 (架設者)	相良村 (多良木営林署)
個別施設整理番号	0046-0249-01	起点側の経度	32° 20' 18.7"	橋梁ID	32. 33853, 130. 88074
		起点側の緯度	130° 52' 50.7"		
路線名	山手夜狩尾線	緊急輸送道路	その他	カナ名	マダダニヤシ
路線番号(等級)	249(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	藤田谷橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.75km	建設年度	1982年3月
供用年数	43年	種別	現木ッス	型式	現場打ちボックス
適用示方書	S50標準設計	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	藤田谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.7m (2.0m)		幅員(車道幅員)	7.0m (3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ち木ッスカルバート2000×2000			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	牛駄場山手線の牛駄場橋は、国道445号から牛駄場、山手、夜狩尾集落へ5.0km程度入った橋梁であり、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	100.00点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	劣化原因	-				
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	45位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		38位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		11					11			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	47			施設管理者 (架設者)	相良村 (熊本県)
個別施設整理番号	0047-0290-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 20' 04.1" 130° 52' 05.1"	橋梁ID	32. 33447, 130. 86809
路線名	牛駄場山手線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ウダバパス
路線番号(等級)	290(その他)	代替路の有無	無	橋梁名	牛駄場橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.12km	建設年度	1980年3月
供用年数	45年	種別	PCI橋	型式	プレテンI桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	藤田谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.4m (11.0m)		幅員(車道幅員)	5.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純I桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	半重力式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	ゴム製	
施設の目的 利用実態等	牛駄場山手線の牛駄場橋は、国道445号から牛駄場、山手、夜狩尾集落へ3.0km程度入った橋梁であり、生活道の他に木材の運搬に使用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	現時点では主構造物の補修は必要ないが、維持工事で排水管のみ対策を行う方が望ましいと考える。				
	橋梁の健全度	88.30点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	R2年7月豪雨による破損が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 20位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		17					17			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	48			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0048-0291-01	起点側の経度	32° 14' 16.0"	橋梁ID	32.23779, 130.79658
		起点側の緯度	130° 47' 47.7"		
路線名	西原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ヤスギバシ
路線番号(等級)	291(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	やすらぎ橋
施設の所在地	相良村深水	起点からの距離	0.45km	建設年度	1996年3月
供用年数	29年	種別	現橋	型式	現場打ちボックス
適用示方書	S61標準設計	橋格(設計荷重)	T-14	橋下条件	新層川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.0m (8.0m)		幅員(車道幅員)	6.2m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	現場打ちボックスカルバート8000×3000			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	西原線のやすらぎ橋は、瀬戸ため池が決壊した場合に相良村役場と東側地域を結ぶボックスであり、通常時の交通量は少ない。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	ボート	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	頂版・側壁に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	95.84点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮・鉄筋のかぶり不足が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	51位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		41位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		15					15			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	49			施設管理者 (架設者)	相良村
個別施設整理番号	0049-0297-01	起点側の経度	32° 17' 22.6"	橋梁ID	32. 28960, 130. 84900
		起点側の緯度	130° 50' 56.4"		
路線名	柿内線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ニシタニバシ
路線番号(等級)	297(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	西谷橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.40km	建設年度	2001年3月
供用年数	24年	種別	RC橋	型式	RC床版
適用示方書	H8道示	橋格(設計荷重)	二等橋・TL-14	橋下条件	晴山谷川支川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.4m(4.1m)		幅員(車道幅員)	4.6m(4.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版			斜橋	
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	-
			支承形式	エラス		落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	-		伸縮装置形式	エラス		
施設の目的 利用実態等	柿内線の西谷橋は、川辺川に注ぐ晴山谷川支川を渡河する橋梁であり、比較的新しい橋梁(供用23年)である。						

施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	93.79点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	診断区分	I:健全				
	劣化原因	-				

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	41位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		34位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		29					29			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										



橋梁台帳番号	50			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0050-0298-03	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 34.2" 130° 50' 28.3"	橋梁ID	32. 32617, 130. 84119
路線名	新深水線	緊急輸送道路	その他	カナ名	シヅカミバシ
路線番号(等級)	298(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	新深水橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0. 14km	建設年度	2005年3月
供用年数	20年	種別	PCT橋	型式	連結ポステンT桁
適用示方書	H8道示	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	88. 0m (85. 8m)		幅員(車道幅員)	6. 2m (5. 0m)
	施設の構造等	上部工型式	2径間連結ポステンT桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	場所打杭・深礎杭・直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	新深水線の新深水橋は、川辺川を渡河する橋梁(九州地方整備局が架設)であり、相良村の中で新しい方(供用19年)の橋梁である。また、新深水橋は川辺川右岸と左岸を結ぶ比較的重要な橋梁であるが、令和2年7月豪雨で橋台基礎が露出している。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車 特殊高所技術	点検延べ日数	3. 0日
	調査結果	本橋は、令和2年7月豪雨の洪水により基礎杭が露出し通行止め・応急復旧の対策が行われている。ただし、その他の部位は軽微な損傷が数箇所確認できる程度で健全である。				
	橋梁の健全度	37. 50点	令和2年7月豪雨の洪水により橋台側面および基礎部の土砂流出が発生し、基礎杭が露出した。このため、通行止めとし、現在は応急復旧を行っている状態である。したがって、緊急に措置を講ずべき状態と判断する。			
	診断区分	IV: 緊急措置段階				
劣化原因	R2年7月豪雨による基礎杭の露出が発生					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	27位 / 51橋
	内容	2024年度に補修工事を行ったため、一定期間は定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	補修直後のため、当分は予定しない。				
	施設の優先度	-	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		33位 / 51橋
	対策費用(概算)	2024年度に補修中のため、優先度は「-」				
管理方法	補修直後であるが、今後の長寿命化対策として、5年に1回の定期点検は行う。また、路面・路上・排水施設等も、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	210					210				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

橋梁台帳番号	51			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0051-0299-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 40.8" 130° 50' 21.3"	橋梁ID	32. 32800, 130. 83925
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ミヤマハシ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	深山橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	0.85km	建設年度	1977年3月
供用年数	48年	種別	鋼桁橋	型式	逆ランガー桁
適用示方書	S47道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	山口谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	135.0m (134.0m)		幅員(車道幅員)	7.3m (6.5m)
	施設の構造等	上部工型式	逆ランガー桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	SM50, SM41, SS41	塗装使用の有無	a-2塗装系
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	控え壁式橋台・半重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	その他		伸縮装置形式	鋼製		
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、深山橋は川辺川に注ぐ山口谷川を渡河する長大橋であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本橋は川辺川ダム建設時の資材運搬用として九州地方整備局が架設した橋梁である。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車 特殊高所技術	点検延べ日数	10.0日
	調査結果	全体的に腐食が顕在化してきているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。(参考意見として、橋種・橋梁規模等を踏まえると早期に対策を行う方が望ましいと考えられる。)				
	橋梁の健全度	43.82点	支承部に腐食、主桁にボルト(F11T)の遅れ破壊が原因と思われるゆるみ・脱落が確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいと判断する。(参考意見として、橋種・橋梁規模等を踏まえると早期に対策を行う方が望ましいと考えられる。)			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	3位 / 51橋
	内容	全体的に腐食が顕在化しておりかつ特殊橋梁で橋梁規模も大きいため、予防保全の観点から塗装塗替えが必要である。				
	実施予定時期	補修設計・工事は、5年以内を目標とする。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		2位 / 51橋
対策費用(概算)	40,433 万円					
管理方法	長寿命化対策として、計画期間内に補修設計・工事を実施した後に定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	630	1,572	7,334	10,299	10,299	10,929				
対策の内容・実施時期	定期点検	補修設計	補修工事	補修工事	補修工事	定期点検 補修工事				

備 考										

橋梁台帳番号	52			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0052-0299-02	起点側の経度 起点側の緯度	32° 20' 12.5" 130° 50' 18.8"	橋梁ID	32. 33681, 130. 83856
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	タノハシ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	竹野橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	1.9km	建設年度	1988年8月
供用年数	36年	種別	RC橋	型式	連続RC床版
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	堂迫谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	56.5m (56.5m)		幅員(車道幅員)	8.7m (7.5m)
	施設の構造等	上部工型式	4径間連続RC床版(8径間)			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	その他		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎・深礎杭	
橋脚工型式	T型橋脚柱角型		伸縮装置形式	ゴム+鋼製		
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、竹野橋は堂迫谷を渡谷する橋梁であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本橋は川辺川ダム建設時の資材運搬用として九州地方整備局が架設した橋梁である。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年2月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	床版(主構)に軽微なひびわれや鉄筋露出が確認できるため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。また、今回点検を実施していない廃止道路の橋面には土砂堆積・滞水が生じていたため、廃止道路側についても維持管理が必要と考えられる。				
	橋梁の健全度	85.10点	ひびわれ、剥離・鉄筋露出が点在し、漏水・滞水、変形・欠損が確認できた。損傷は、全体的に軽微であるが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮・鉄筋のかぶり不足が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	床版(主構)にひびわれ・鉄筋露出があり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、現時点では損傷が軽微なため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 7位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	84					84				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

橋梁台帳番号	53			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0053-0299-03	起点側の経度	32° 20' 31.5"	橋梁ID	32. 34209, 130. 83681
		起点側の緯度	130° 50' 12.5"		
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	クハシ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	嶽野橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.7km	建設年度	1982年10月
供用年数	42年	種別	PC箱橋	型式	ポステン箱桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	ゴメキ谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	40.0m (39.12m)		幅員(車道幅員)	6.7m (5.5m)
	施設の構造等	上部工型式	単純ポステン箱桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	半重力式橋台・逆T式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	鋼製	
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、嶽野橋はゴメキ谷を渡谷する橋梁であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本線は川辺川ダム建設に伴う椎葉集落への代替路として九州地方整備局が整備した道路である。					
施設の 状態等 の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.5日
	調査結果	現時点では支承本体の防錆処理・伸縮装置の取替え・目皿の取替えが必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	75.00点	鉄筋露出およびA1側支承部の腐食が確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
劣化原因	伸縮からの漏水・経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	鋼製支承・伸縮装置に損傷があり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、現時点では損傷が軽微なため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 5位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		82					82			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	54			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0054-0299-04	起点側の経度	32° 20' 36.4"	橋梁ID	32.34344, 130.83617
		起点側の緯度	130° 50' 10.2"		
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	タノノハラ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	嶽野2号橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.8km	建設年度	1987年8月
供用年数	37年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	30.5m (29.58m)		幅員(車道幅員)	6.7m (5.5m)
	施設の構造等	上部工型式	単純ポステンT桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台			基礎形式	深礎杭
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	鋼製	
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、嶽野2号橋は渡谷する橋梁であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本線は川辺川ダム建設に伴う椎葉集落への代替路として九州地方整備局が整備した道路である。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.5日
	調査結果	上部工は、軽微な損傷が確認でき、下部工躯体の遊離石灰(ひびわれ)は、谷側に下部工が沈下し生じている可能性があるため、注視する必要がある。また、橋座面に滞水が発生しているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。				
	橋梁の健全度	83.00点	下部工躯体に遊離石灰が点在し、橋台の橋座面に滞水が生じている。また、高欄ボルトのゆるみ・脱落が確認できた。損傷は、全体的に軽微であるが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	下部工の沈下が原因の可能性があるため、注視する必要がある。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	上下部工・路面に損傷があり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、現時点では損傷が軽微なため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 15位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
対策費用(概算)	-					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	73					73				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考



橋梁台帳番号	55			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0055-0299-05	起点側の経度 起点側の緯度	32° 20' 38.9" 130° 50' 08.3"	橋梁ID	32.34413, 130.83563
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	コハラハシ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	小平橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	2.9km	建設年度	1988年5月
供用年数	36年	種別	PCT橋	型式	ポステンT桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	小平谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	22.6m (21.64m)		幅員(車道幅員)	8.2m (7.0m)
	施設の構造等	上部工型式	単純ポステンT桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	直接基礎(台座コン)
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	鋼製	
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、小平橋は小平谷を渡谷する橋梁であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本線は川辺川ダム建設に伴う椎葉集落への代替路として九州地方整備局が整備した道路である。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	95.50点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	I:健全					
劣化原因	-					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	18位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		19位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		56					56			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考										

橋梁台帳番号	56			施設管理者 (架設者)	相良村 (国交省)
個別施設整理番号	0056-0299-06	起点側の経度	32° 20' 41.5"	橋梁ID	32. 34486, 130. 83559
		起点側の緯度	130° 50' 08.1"		
路線名	深水野原線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ノハラバシ
路線番号(等級)	299(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	野原橋
施設の所在地	相良村四浦西	起点からの距離	3.0km	建設年度	1988年3月
供用年数	37年	種別	PC箱橋	型式	連続ポステン箱桁
適用示方書	S53道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	椎葉谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	145.0m (143.4m)		幅員(車道幅員)	6.2m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	3径間連続ポステン箱桁			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	ラーメン式橋台・逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式橋脚		伸縮装置形式	ゴム製		
施設の目的 利用実態等	初神野原線・深水野原線は、川辺川右岸を約4kmに渡り縦断する路線であり、野原橋は川辺川に注ぐ椎葉谷川を渡河する長大橋であり、迂回路は16km程度に及ぶ。また、本線は川辺川ダム建設に伴う椎葉集落への代替路として九州地方整備局が整備した道路である。					

施設の状態等の概要	点検日	2021年12月	点検方法	橋梁点検車 特殊高所技術	点検延べ日数	6.0日
	調査結果	現時点ではひびわれのみ補修が必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。				
	橋梁の健全度	71.02点	箱桁及び橋脚にひびわれが確認でき、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	Ⅱ: 予防保全段階				
劣化原因	コンクリートの初期の乾燥収縮が原因である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	8位 / 51橋
	内容	箱桁及び橋脚にひびわれがあり、予防保全の観点から機械を見て補修する必要があるが、現時点では損傷が軽微なため、今後の損傷の進行等を見極めてから判断すると良いと考える。				
	実施予定時期	三巡目の点検終了後に損傷の進行等を見極めてから再度判断する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 17位 / 51橋 橋梁の主要部材の損傷は軽微であるため、優先度は「中」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		361					361			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	57	施設管理者 (架設者)		相良村
個別施設整理番号	0057-0301-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 13' 01.1" 130° 48' 02.0"	橋梁ID 32.21696, 130.80057
路線名	新村井沢線	緊急輸送道路	その他	カナ名 イザハシ
路線番号(等級)	301(その他)	代替路の有無	有	橋梁名 井沢橋
施設の所在地	相良村柳瀬	起点からの距離	0.60km	建設年度 2006年3月
供用年数	19年	種別	ブロック	型式 プレキャストボックス
適用示方書	H11カルバート	橋格(設計荷重)	T-25	橋下条件 用水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.1m (1.8m)		幅員(車道幅員)	5.0m (4.4m)
	施設の構造等	上部工型式	プレキャストボックスカルバート1800×1800			直橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	-		落橋防止の有無	-
	橋台工型式	-		基礎形式	-	
橋脚工型式	-		伸縮装置形式	-		
施設の目的 利用実態等	井沢橋は、用水路用のボックスカルバートであり、周辺には田畑があるため、農作期には頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検日	2021年11月	点検方法	地上・梯子	点検延べ日数	0.5日
	調査結果	頂版と側壁の製品目地の劣化・舗装クラック・側壁のひびわれが確認できるが、損傷は軽微なため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	98.13点	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。			
	診断区分	I:健全				
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮・目地の経年劣化が原因である。					
長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度～R16年度	優先順位の分類	④	橋梁の順位	49位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられない。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断区分に基づいた橋梁の順位 41位 / 51橋 橋梁の主要部材は健全であるため、優先度は「低」			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)		10					10			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

橋梁台帳番号	58			施設管理者 (架設者)	相良村 (九州農政局)
個別施設整理番号	0058-0304-01	起点側の経度 起点側の緯度	32° 19' 07.7" 130° 50' 39.3"	橋梁ID	32.31881, 130.84425
路線名	袴谷線	緊急輸送道路	その他	カナ名	ハカマダニゴウキョウ
路線番号(等級)	304(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	袴谷2号橋
施設の所在地	相良村四浦東	起点からの距離	0.09km	建設年度	2000年12月
供用年数	24年	種別	PCスラブ橋	型式	プレテンスラブ桁
適用示方書	不明	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	袴谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.6m (10.06m)		幅員(車道幅員)	6.4m (5.2m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテンPC単純スラブ桁			斜橋(55°)
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台			基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	-			伸縮装置形式	ゴム製	
施設の目的 利用実態等	袴谷線の袴谷2号橋は、国道445号から袴谷へ100m程度入った橋梁であり、周辺には田畑があるため農作期には頻りに利用されている。					

施設の状態等の概要	点検日	2022年12月	点検方法	橋梁点検車	点検延べ日数	1.0日
	調査結果	部分的に軽微な損傷が散見される程度であるため、現時点では補修は不要と考えられる。				
	橋梁の健全度	95.66点	診断区分	部分的に軽微な損傷は確認されるが、構造物の機能に支障は生じておらず、健全な状態にある。		
	I:健全					
劣化原因	コンクリートの乾燥収縮が見受けられるが、損傷は軽微である。					

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	③	橋梁の順位	41位 / 51橋
	内容	現時点では主要部材に補修が必要な箇所は見受けられないため、定期点検で状態を把握するのみとする。				
	実施予定時期	損傷が軽微なため、特に実施予定時期は指定しない。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位		36位 / 51橋
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)			35					35		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

橋梁台帳番号	59			施設管理者 (架設者)	相良村 (熊本県農政部)
個別施設整理番号	0059-0305-01	起点側の経度	32° 14' 43.5"	橋梁ID	32. 24542, 130. 80964
		起点側の緯度	130° 48' 34.7"		
路線名	清流川辺川線	緊急輸送道路	第二次緊急輸送路相当	カナ名	カヲオハシ
路線番号(等級)	305(その他)	代替路の有無	有	橋梁名	相良大橋
施設の所在地	相良村深水	起点からの距離	1.5km	建設年度	1993年2月
供用年数	32年	種別	PC箱橋	型式	ポステン中空床版 +連続ポステン箱桁
適用示方書	H2道示	橋格(設計荷重)	一等橋・TL-20	橋下条件	川辺川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	313.0m (310.02m)		幅員(車道幅員)	10.0m (9.0m)
	施設の構造等	上部工型式	1径間ポステンPC単純中空床版+4径間連続ポステン箱桁			曲線橋
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承・鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台			基礎形式	直接基礎・ケーソン基礎
橋脚工型式	壁式橋脚・柱式橋脚			伸縮装置形式	鋼製	

施設の目的  
利用実態等  
清流川辺川線は、九州縦貫高速道の人吉インター近くの市道を起点とし、人吉盆地北部の畑台地を東に山江村・相良村・あさぎり町・多良木町・水上村を経て湯前町の国道388号を結ぶ球磨広域農道(通称:フルーティロード)である。沿線の周辺には農業をを主体とした産業が営まれており、物資の輸送に基幹的な役割を果たしており、相良大橋は球磨地域にとって重要な橋梁である。

施設の状態等の概要	点検日	2021年2月	点検方法	橋梁点検車 特殊高所技術	点検延べ日数	10.5日
	調査結果	上部工の主構(下床版)および下部工にひびわれが確認され、鋼製支承の腐食が顕在化してきている。その他の部位は軽微な損傷が散見される程度である。したがって、ひびわれは予防保全の観点から機会を見て補修する必要があるが、その他は経過観察が良い。				
	橋梁の健全度	73.45点	主桁、橋台及び橋脚にひびわれが発生しているため、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と判断する。			
	診断区分	II: 予防保全段階				
	劣化原因	鉄筋等で拘束されたコンクリートの乾燥収縮により、引張応力が生じたことが原因である。				

長寿命化計画の内容	計画期間	R7年度~R16年度	優先順位の分類	②	橋梁の順位	1位 / 51橋
	内容	上部工・下部工にひびわれ、鋼製支承に腐食がありかつ球磨地域の基幹道路であるため、予防保全の観点から補修が必要である。なお、路面(舗装・伸縮)、排水施設に軽微な損傷が確認でき、維持管理業務で行うことが望ましい。				
	実施予定時期	補修設計・工事は、10年以内を目標とする。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方)	診断区分に基づいた橋梁の順位 3位 / 51橋 橋梁の主要部材に損傷があり、損傷が軽微な段階で対策を行うことから優先度は「高」		
	対策費用(概算)	18,203 万円				
管理方法	長寿命化対策として、計画期間内に補修設計・工事を実施した後に定期点検を行う。また、路面・路上・排水施設等は、定期的に維持管理業務で行う。					

	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13年度 (2031年)	令和14年度 (2032年)	令和15年度 (2033年)	令和16年度 (2034年)
対策費用 (万円)	799					799	1,533	5,754	5,754	5,163
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検	補修設計	補修工事	補修工事	補修工事

備 考										



過去(2015年~2024年)の点検結果

上段：一巡目点検(2015年~2019年)  
下段：二巡目点検(2020年~2024年)

台帳番号	橋梁名	フリガナ	橋種	路線名	架設年次(西暦)	橋長(m)	全幅(m)	点検年度	健全度	診断区分	備考
1	椎葉橋	シババシ	4径間連続RCスパン箱桁橋	椎葉線	1990年3月	253.0	6.2	2015 25.38 2020 63.64	II	II	主6E,他7D 主6E,横6E,下6E,支1B
3	とどしり橋	トドシバシ	非合成1桁橋(耐候性) プレPC単純床版橋	野原椎葉線	1981年8月 2002年3月	11.4	6.6	2017 83.97 2021 76.41	II	II	床7E,下20E,支1D,他23E・14E 主1D,横1C,下12E,支1D
4	榎木谷橋	エノキノコバシ	単純非合成1桁橋 (耐候性鋼材構仕様)	野原椎葉線	1997年4月	19.0	8.5	2015 75.59 2020 75.56	II	II	主17E,支24E,他23E 支24E
5	小谷谷橋	コニヤノコバシ	RC単純床版橋 PC単純床版橋	深水山口線	1982年3月 拡張不明	5.6	6.1	2017 96.65 2021 44.65	I	III-済	主7C,下26C・17E→2024措置完了済
6	山口橋	ヤマケシバシ	現場打ちRCスパン橋 3900×2500	深水山口線	1995年3月	4.5	5.0	2017 95.84 2021 96.66	I	I	
7	山口谷一号橋	ヤマケシチノコバシ	RC単純床版橋	小河内線	1994年9月	14.1	5.2	2017 93.00 2021 99.48	II	I	下20E,他23C・24E 他20E・24E・19E
8	山口谷二号橋	ヤマケシチノコバシ	RC単純床版橋	小河内線	1982年3月	5.0	4.0	2017 92.63 2021 82.06	II	I	下20E,他24E 他6E・23C
9	山口谷三号橋	ヤマケシチノコバシ	RC単純床版橋	小河内線	1982年3月	5.4	4.0	2017 77.37 2021 42.95	II	III-済	主20E,下20E,他24E 主7E,下26C,他24E→2024措置完了済
11	中尾谷橋	ナカオノコバシ	プレPC単純1桁橋	初神野原線	1975年3月	10.4	7.3	2017 86.09 2021 76.96	II	II	下20E,他23C・15E・24E 床3C,他15E
12	深水橋	フカミバシ	単純非合成1桁橋	初神野原線	1975年1月	16.0	4.3	2015 83.09 2020 83.54	II	II	他14C
13	野原2号橋	ノハラ2ノコバシ	単純非合成1桁橋	初神野原線	1979年3月	12.5	5.0	2017 88.26 2021 86.53	II	II	下20E,他3E・14E・24E 支1D,他20E・24E
15	初神谷橋	ハツカミヤノコバシ	RC単純床版橋	小柏線	1983年3月	4.1	4.4	2017 84.33 2021 37.92	II	III-済	主7E,下20E,他23C・14E 主7E,下26C→2024措置完了済
16	袴谷橋	ハカマノコバシ	RC単純床版橋	大谷袴谷線	1982年3月	5.4	6.7	2017 86.15 2021 74.78	II	I	主20E,下20E,支19E,他23C・3C・14E 他3E・23C・14E
17	六藤橋	ムツウバシ	3径間単純RCスパン桁橋	六藤上平線	1965年5月	84.7	4.7	2015 35.68 2020 38.72	II	II	主7D,下26C,他13E 主7D,下26C,支1D,他13E
18	晴山谷橋	ハルヤマダノコバシ	RC単純床版橋	谷尻晴山線	1975年12月	8.3	5.9	2017 91.82 2021 92.40	II	I	他14E
19	平川橋	ヒラカワシ	5径間単純RCスパン桁橋	上下坂平川線	1967年5月	137.9	3.7	2018 24.03 2022 80.97	I	I	2014上・下部工補修、耐震補強済
20	廻谷橋	メグリダノコバシ	プレPC単純1桁橋	廻線	1990年3月	11.0	3.5	2017 80.25 2021 86.67	II	II	主20E,床8D,下20E,他23E 床8D,他2E・23E・14C
21	観音橋	カンノハシ	3径間連続RCスパン桁橋	小森廻線	2015年1月	121.0	8.5	2018 92.72 2022 88.60	I	I	
22	小森橋	コモリバシ	RC単純床版橋	小森新深田線	1982年3月	6.4	6.7	2017 93.30 2021 93.30	II	I	主7E,他14E
23	高尾野橋	タカノハシ	3径間単純RCスパン桁橋	高尾野上川下線	1964年9月	90.2	3.7	2018 56.13 2022 81.08	I	I	2015上・下部工補修、耐震補強済
25	上園橋	ウエノハシ	RC単純床版橋	上園高原線	1982年3月	3.2	5.5	2017 75.40 2021 89.05	II	II	主20E,他14E
26	別府第二橋	ヒコウダノコバシ	RC単純床版橋	別府原線	1982年3月	2.5	7.5	2017 100.00 2021 78.37	I	I	主20E・7C
27	佐土原橋	サドワラバシ	プレキャストRCスパン橋 2800×1500	別府原線	2009年4月	3.2	5.5	不明 2020 98.85	—	—	熊本県が実施のため不明
28	雨谷橋	アメダノコバシ	プレPC単純1桁橋	永江瀬線	1981年3月	11.4	5.8	2017 100.00 2021 100.00	II	I	他3C・14E
29	黒石谷橋	クロシタノコバシ	単純非合成1桁橋	永江瀬線	1973年3月	15.0	5.8	2015 62.48 2020 66.21	II	II	主1D,支24E 主1D,床7D,支1C・24E
30	橋谷橋	ハシダノコバシ	RC単純床版橋	永江瀬線	1984年3月	6.0	6.0	2017 92.93 2021 76.94	II	II	主20E,下20E,他14E・24E 主20E
31	白木谷橋	シラキノコバシ	プレPC単純1桁橋	永江瀬線	1989年3月	10.9	6.4	2017 91.97 2021 97.32	II	II	床20E,下20E,他14E・3C・24E
32	平川谷橋	ヒラカワノコバシ	現場打ちRCスパン橋 8000×2200	永江瀬線	2001年7月	9.0	7.0	2017 96.22 2021 92.86	I	I	
33	六藤谷橋	ムツウダノコバシ	単純非合成1桁橋	永江瀬線	1984年3月	10.0	3.6	2017 75.42 2021 77.32	II	II	床20E,下20E,支1D,他24E・3C 支1D
34	発電所橋	ハツデンショバシ	2径間連続RC床版橋 RCT桁橋	永江瀬線	1984年3月	11.0	3.6	2017 89.52 2021 72.76	II	II	主7E,下20E,他6D 主6D・7E,下20E,他6D,支1B
35	瀬馳橋	セチバシ	RC単純床版橋	永江瀬線	1984年3月	10.6	7.3	2017 91.81 2021 75.68	II	II	主20E,下20E,他3C・14E 下6C,他15E
36	新層橋	ニハシ	現場打ちRCスパン橋 5000×3000	永江榎木谷線	1995年3月	5.6	5.0	2017 91.16 2021 88.68	II	II	他14E・24E
37	相良橋	サカライバシ	2径間単純RCスパン桁橋	前田松馬場線	2000年1月	87.5	13.5	2017 89.49 2021 87.30	I	I	下20E,他23E・14E・24E 下6C,他4E・14C
39	夫婦橋	メウメノコバシ	3径間単純RCスパン桁橋	松葉新並木線	1990年10月	105.0	10.3	2017 62.41 2021 81.53	II	II-済	床7E,下20E,支24E,他3C・24E・14E 床3C,下6E・14C→2024措置着手中
42	八ツ田橋	ヤツダバシ	現場打ちRCスパン橋 3000×3500	八ツ田丹沢線	2004年3月	3.7	6.0	2017 95.33 2021 90.65	II	II	他26C
43	権現橋	ゴンゲンバシ	6径間単純RCスパン桁橋	八ツ田丹沢線	1976年3月	189.6	5.9	2015 0.00 2020 59.85	II	II	支19E,他23E→2018措置完了済 2020撤去→支19E
45	大神橋	オオカミバシ	3径間単純RCスパン桁橋	大谷初神線	1994年6月	99.2	8.0	2017 77.35 2021 42.43	II	II	下20E,支24E,他14E・24E 横20E,下7D
46	藤田谷橋	フジダノコバシ	現場打ちRCスパン橋 2000×2000	山手夜狩尾線	1982年3月	2.7	7.0	2017 99.42 2021 100.00	II	I	他14E
47	牛駄場橋	ウシダバシ	プレPC単純1桁橋	牛駄場山手線	1980年3月	11.4	5.0	2017 91.34 2021 88.30	II	I	下20E,他6E・3C 他4E
48	やすらぎ橋	ヤスラギバシ	現場打ちRCスパン橋 8000×3000	西原線	1996年3月	9.0	6.2	2017 96.64 2021 95.84	II	I	他3C・14E
49	西谷橋	ニシノコバシ	RC単純床版橋	柿内線	2001年3月	4.4	4.6	2017 92.94 2021 93.79	II	I	下20E,他23C・14E
50	新深水橋	シンフカミバシ	2径間連続RCスパン桁橋	新深水線	2005年3月	88.0	6.2	2015 56.57 2020 37.50	II	IV-済	主18C,下8D,他19E 下26E→2024措置完了済
51	深山橋	ミヤマバシ	逆ラガ-桁橋	深水野原線	1977年3月	135.0	7.3	2015 38.17 2020 43.82	II	II	主3C,下20E,支1D 主3C,支1D
52	竹野橋 (廃道除外)	タケノハシ	4径間連続RC床版橋	深水野原線	1988年8月	99.5 56.5	14.3 8.7	2015 49.84 2020 85.10	II	II	主6D(廃止道路含む) 〃(廃止道路含まず)
53	嶺野橋	タケノハシ	単純RCスパン桁橋	深水野原線	1982年10月	40.0	6.7	2017 77.91 2021 75.00	II	II	主7E,下20E,支1D,他23E・24E 主7E,支1D
54	嶺野2号橋	タケノコバシ	単純RCスパン桁橋	深水野原線	1987年8月	30.5	6.7	2015 84.85 2020 83.00	II	II	下8D,他3C 下8C
55	小平橋	コエラバシ	単純RCスパン桁橋	深水野原線	1988年5月	22.6	8.2	2017 93.27 2021 95.50	II	II	下20E,他14E
56	野原橋	ノハラバシ	3径間連続RCスパン桁橋	深水野原線	1988年3月	145.0	6.2	2017 66.10 2021 71.02	II	II	下20E,他14E 主6D,下6E
57	井沢橋	イザノバシ	プレキャストRCスパン橋 1800×1800	新村井沢線	2006年3月	2.1	5.0	2017 98.13 2021 98.13	II	I	他24E
58	袴谷2号橋	ハカマニノコバシ	プレPC単純RCスパン桁橋	袴谷線	2000年12月	10.6	6.4	2018 90.05 2022 95.66	I	I	
59	相良大橋	サカライハシ	1径間単純中空床版橋 4径間連続RCスパン桁橋	清流川辺川線	1993年2月	313.0	10.0	2013 95.23 2020 73.45	I	I	主6D,下6D,支1C

○健全性の判定区分について

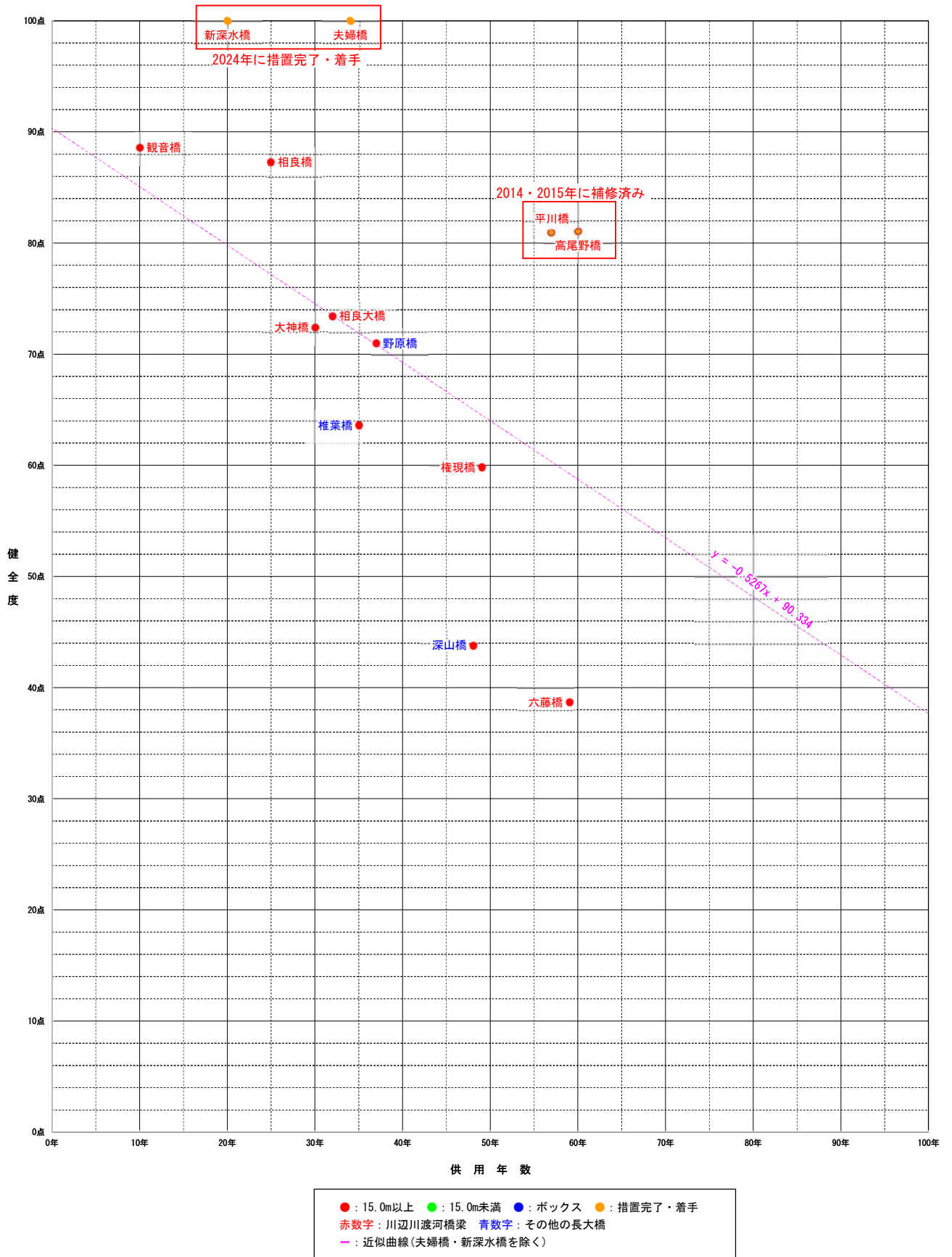
区分	状態	基本的な考え方
I	健全 道路橋の機能に支障が生じていない状態。	監視や対策を行う必要のない状態をいう。
II	予防保全段階 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。	状態に応じて、監視や対策を行うことが望ましい状態をいう。
III	早期措置段階 道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。	早期に監視や対策を行う必要がある状態をいう。
IV	緊急措置段階 道路橋の機能に支障が生じている。又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。	緊急に対策を行う必要がある状態をいう。

供用年数と健全度の関係 (全体 : 51橋)



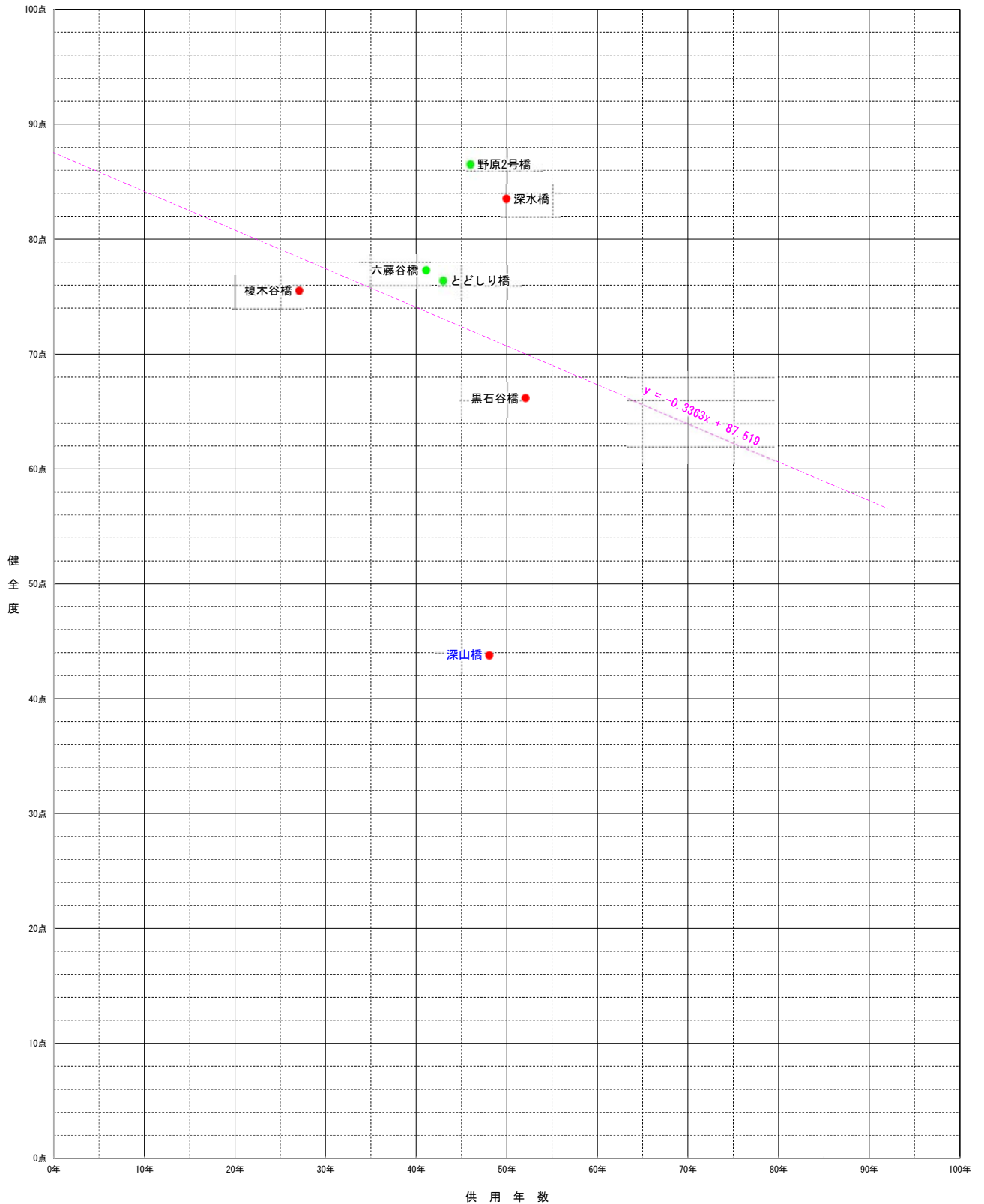
近似曲線(措置完了・着手および健全度100点を除く)  $y = -0.6329x + 105.54$ より、  
補修周期を50年とすると健全度は74点、健全度を60点とすると補修周期は72年となる。

供用年数と健全度の関係（川辺川渡河橋梁：10橋・その他の長大橋：3橋）



近似曲線(健全度100点を除く)  $y = -0.5267x + 90.334$ より、  
補修周期を50年とすると健全度は64点、健全度を60点とすると補修周期は58年となる。

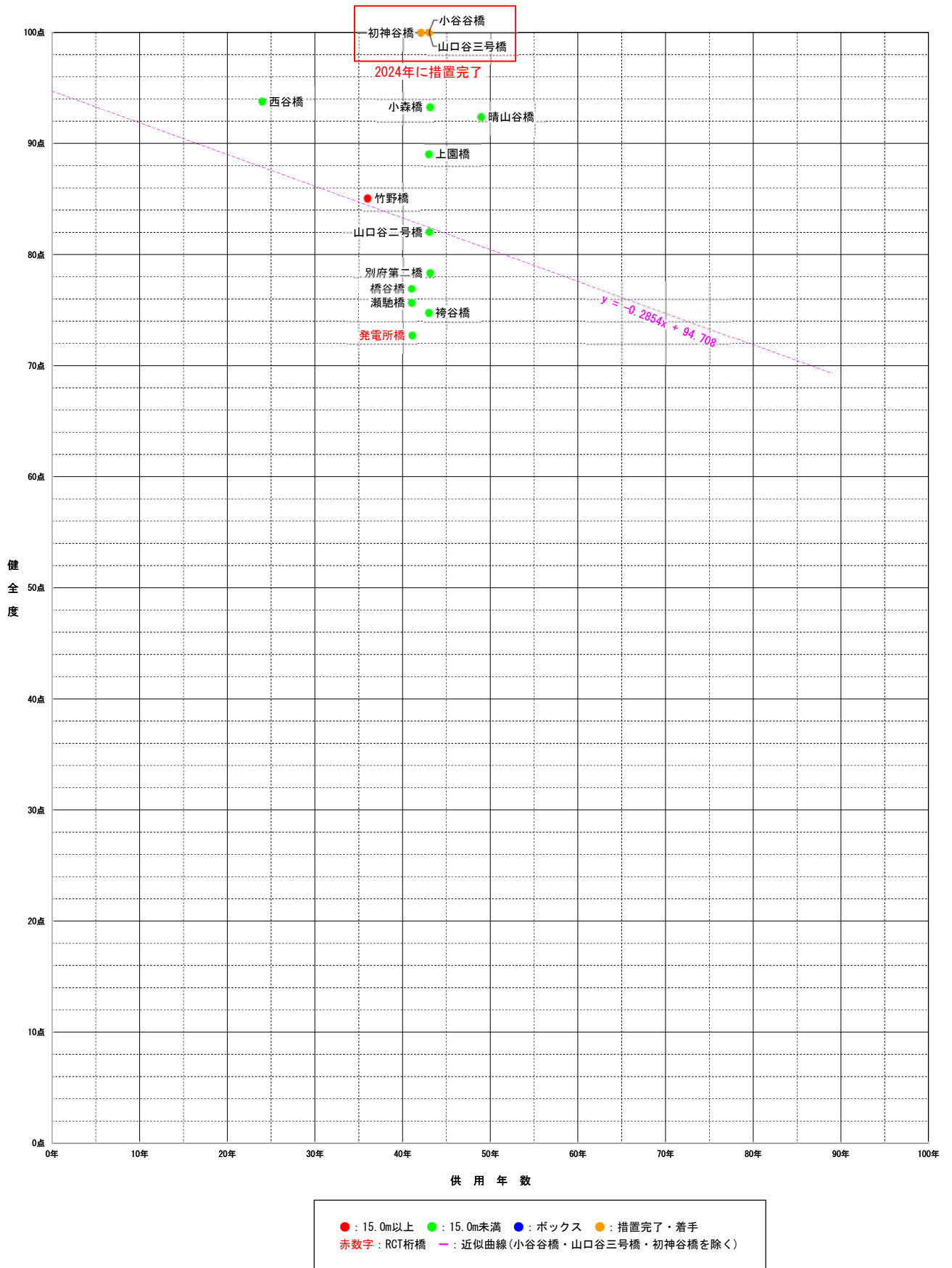
供用年数と健全度の関係（鋼橋：7橋）



● : 15.0m以上 ● : 15.0m未満 ● : ボックス ● : 措置完了・着手  
 赤数字 : 川辺川渡河橋梁 青数字 : その他の長大橋  
 - : 近似曲線

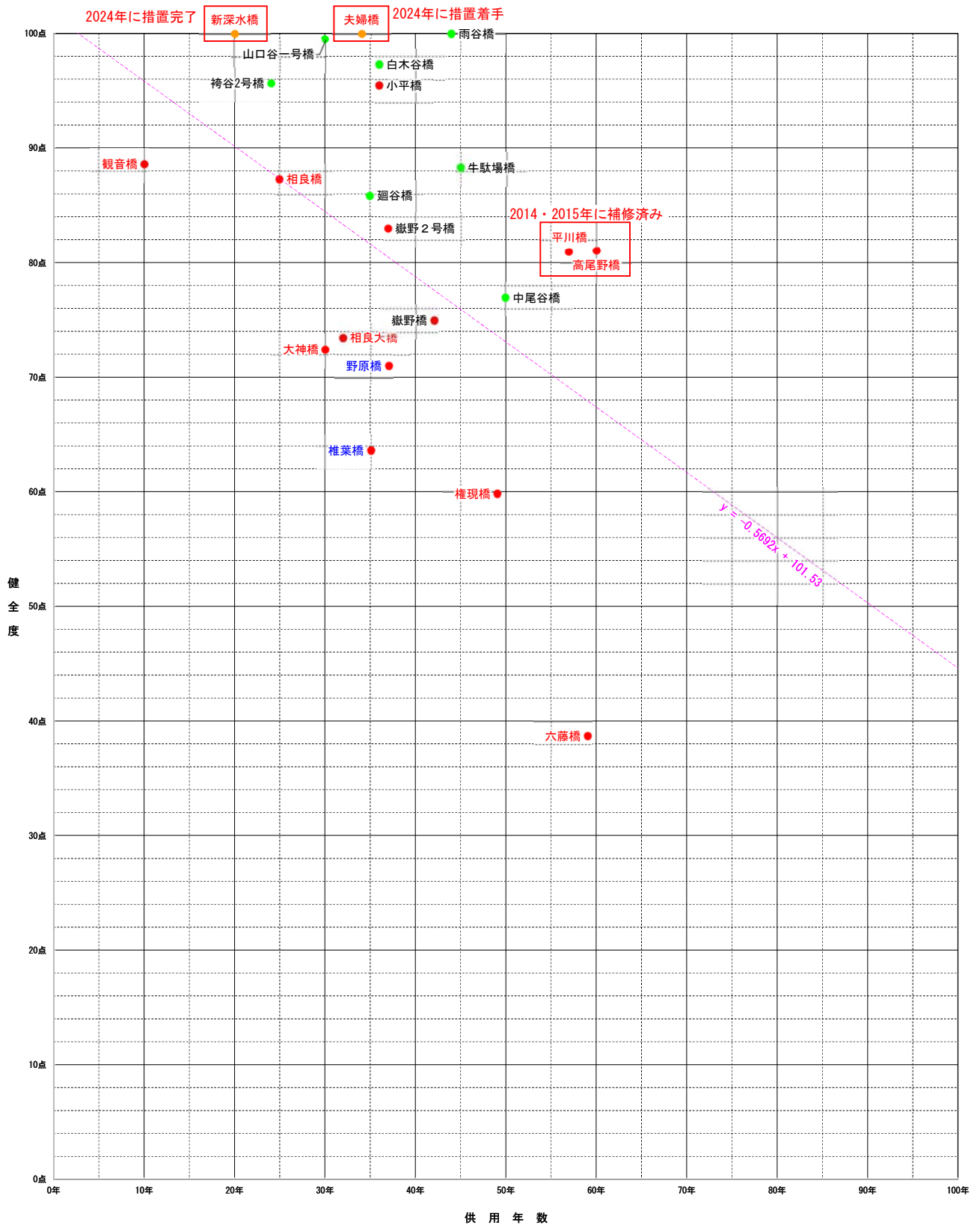
近似曲線（健全度100点を除く） $y = -0.3363x + 87.519$ より、  
 補修周期を50年とすると健全度は71点、健全度を60点とすると補修周期は82年となる。

供用年数と健全度の関係 (RC橋 : 14橋)



近似曲線 (健全度100点を除く)  $y = -0.2854x + 94.708$  より、  
 補修周期を50年とすると健全度は80点、健全度を60点とすると補修周期は122年となる。

供用年数と健全度の関係 (PC橋 : 22橋)

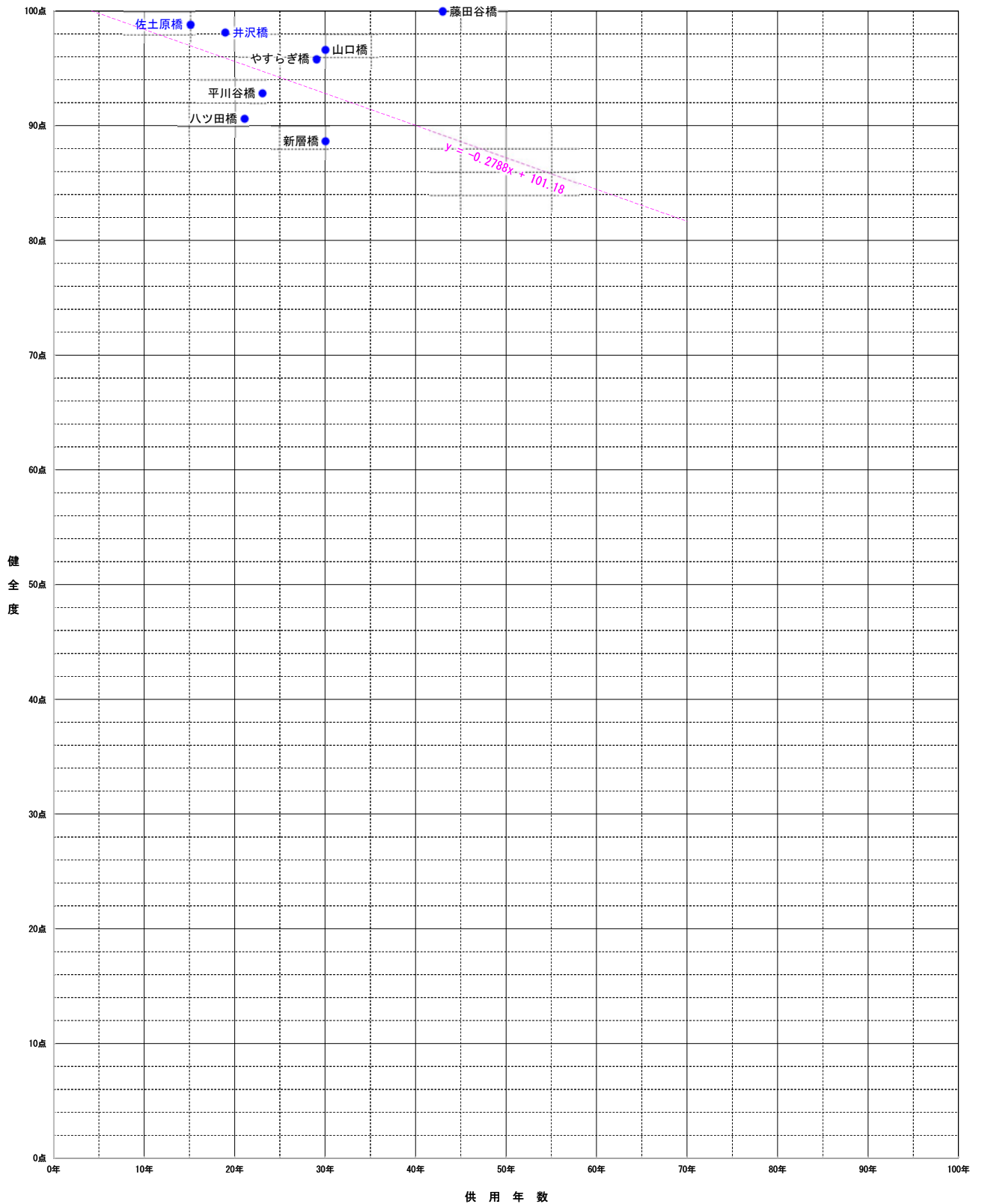


● : 15.0m以上 ● : 15.0m未満 ● : ボックス ● : 措置完了・着手  
 赤数字 : 川辺川渡河橋梁 青数字 : その他の長大橋  
 - : 近似曲線(夫婦橋・新深水橋・雨谷橋を除く)

近似曲線(健全度100点を除く)  $y = -0.5692x + 101.53$ より、  
 補修周期を50年とすると健全度は73点、健全度を60点とすると補修周期は73年となる。



供用年数と健全度の関係（ボックスカルバート：8橋）



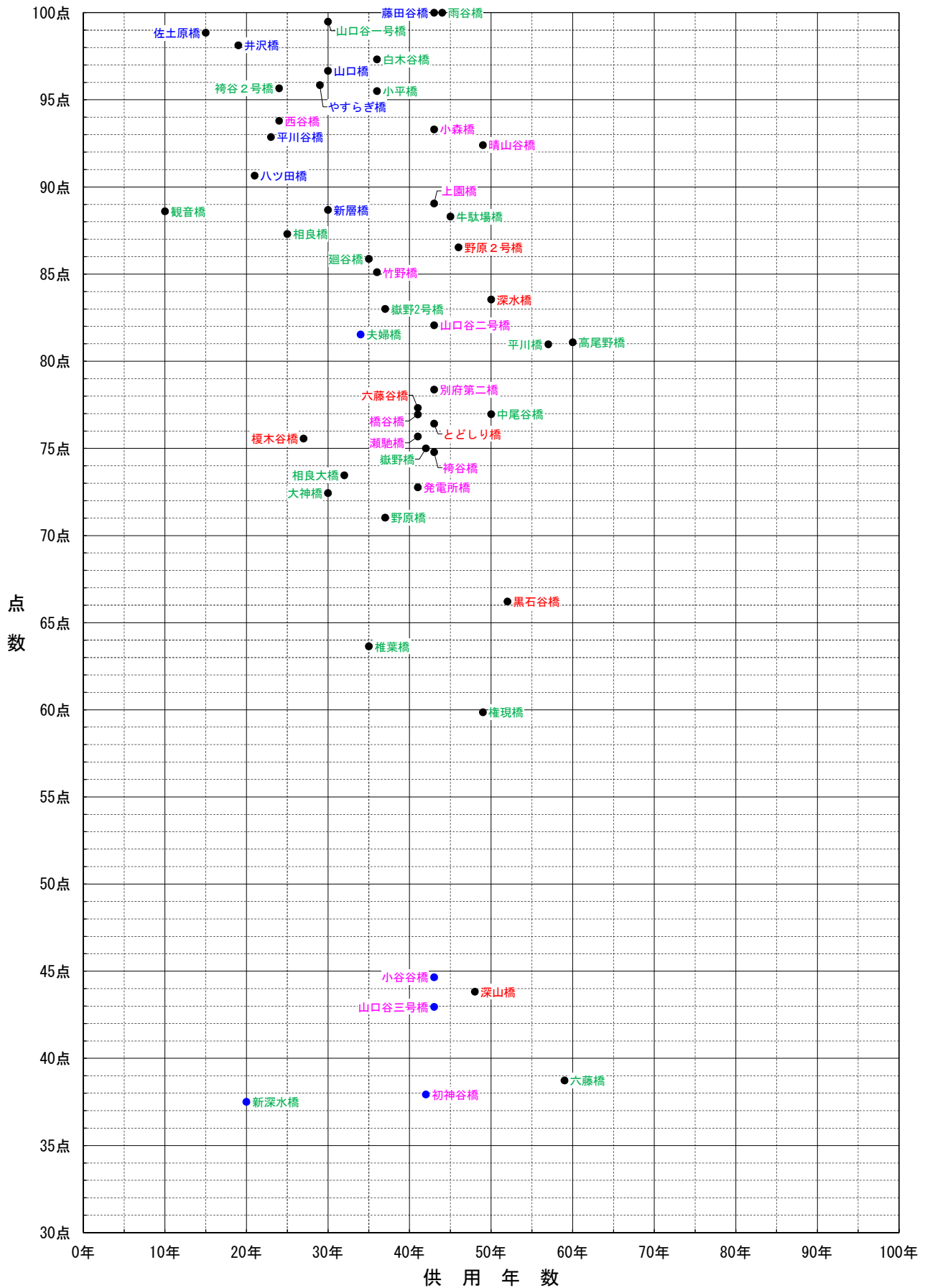
● : 15.0m以上 ● : 15.0m未満 ● : ボックス ● : 措置完了・着手  
 青数字 : プレキャスト製品    - : 近似曲線(藤田谷橋を除く)

近似曲線(健全度100点を除く)  $y = -0.2788x + 101.180$ より、  
 補修周期を50年とすると健全度は87点、健全度を60点とすると補修周期は148年となる。



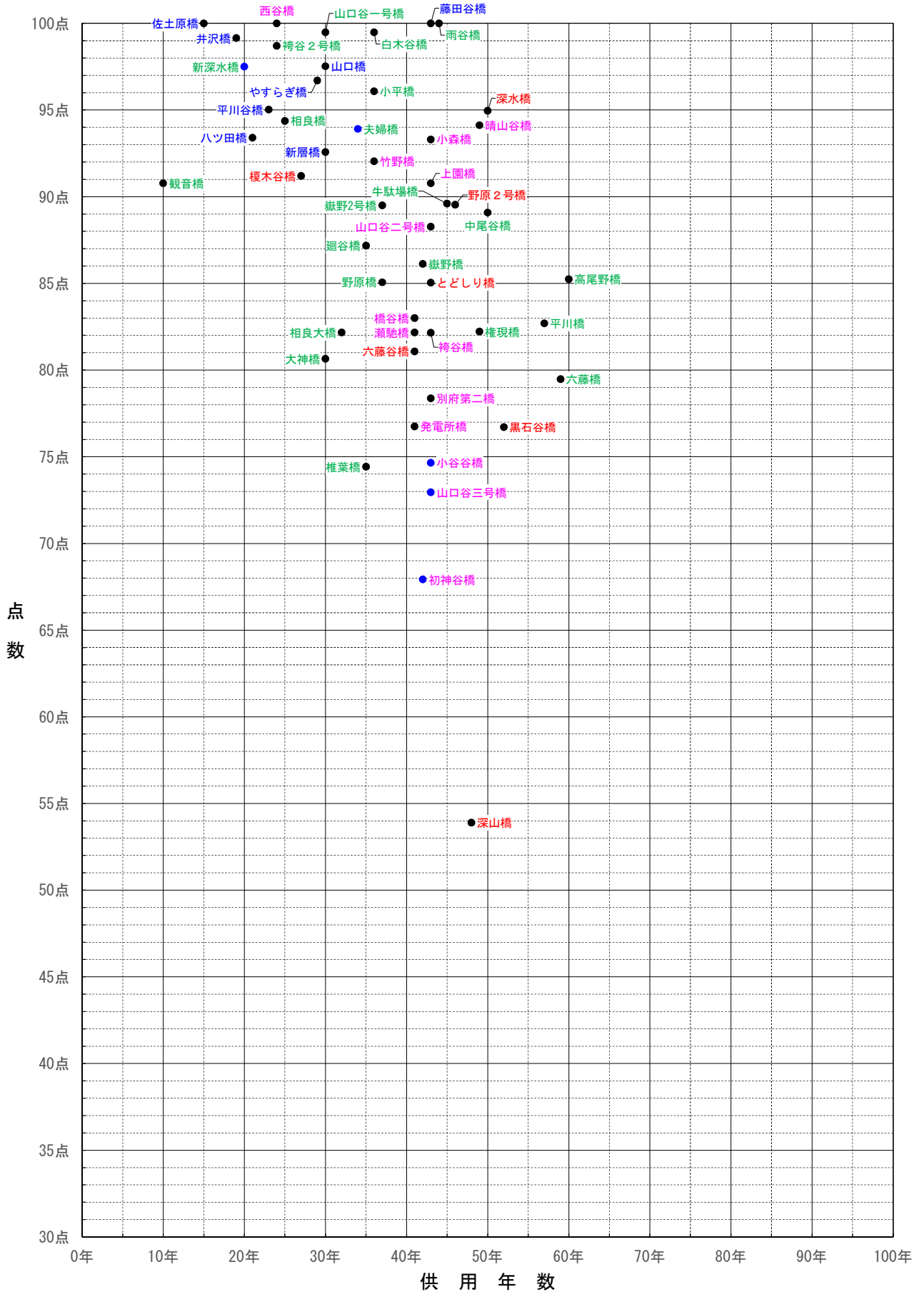


### 供用年数と健全度の関係

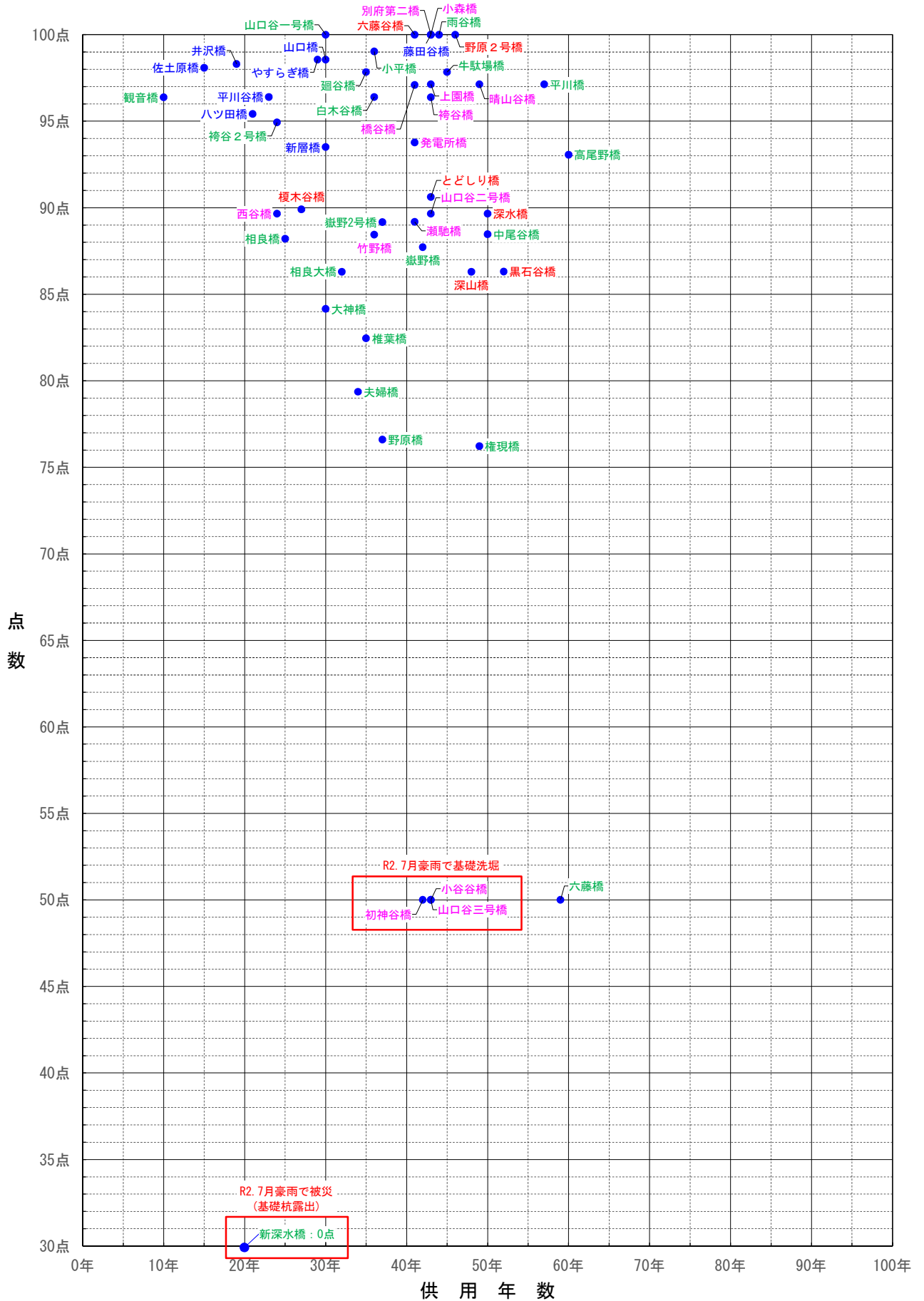


赤字：鋼橋 緑字：PC橋 桃字：RC橋 青字：ボックス  
 ●：措置完了・着手の橋梁 ●：その他の橋梁

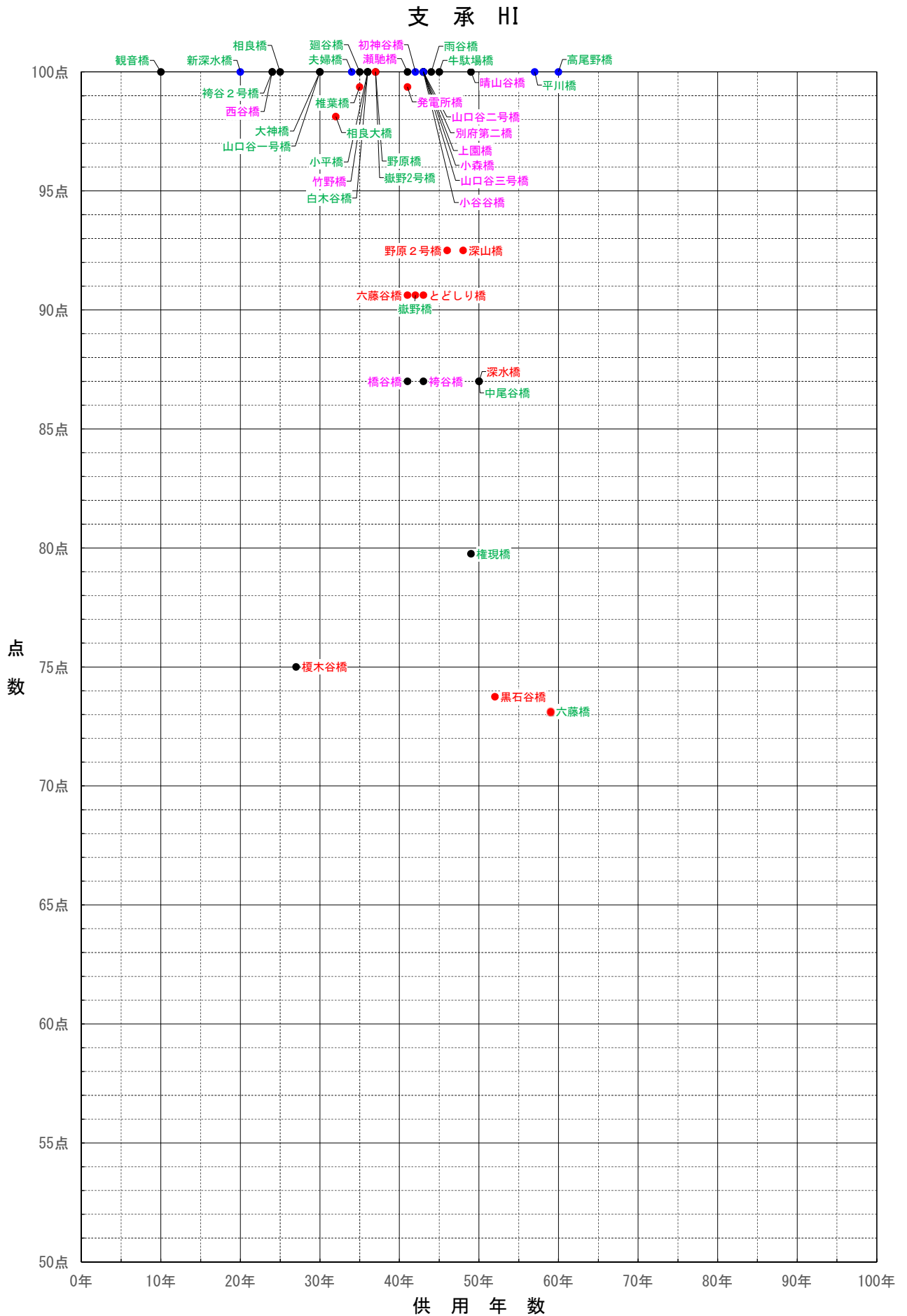
# 上部 HI



### 下部 HI







8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(橋梁諸元)

※代替路の有無は、R3.9月現在  
(R2.7月豪雨による被災道路を考慮)

※橋梁種別の青字(ボックスカルバートの寸法)は、推定

その1

橋梁 台帳 番号	橋梁 コード	フリガナ 橋 梁 名	架設年次 ※青字は推定	路 線 名	所在地	起点側の位置		距離標 (4桁表示)	上り・ 下り線	道路橋下条件 (跨いでいるもの)	代替路 の有無	自専道 一般道	当該道路橋 緊急輸送道 の種類	添架物 (名称)	二巡目後の数量			橋 梁 種 別		設計 活荷重	前回点検時の情報				
						緯度	経度								橋長 (m)	全幅員 (m)	橋面 (m2)	橋種	橋 梁 種 別		適用 示方書	調査手段 桁下アクセス等	桁下高 水深	点検時の留意点	
																			上部工形式						その他 (拡幅・補修履歴等)
1	0001-0264-01	シババシ 椎葉橋	平成2年3月 (1990年3月)	椎葉線 264(その他)	相良村四浦西	32° 20' 45.3"	130° 50' 11.4"	無	上下線	椎葉谷川	無	一般道	その他	無	253.0	6.2	1,568.60	コンクリート橋	4径間連続ホーステン桁橋 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(場所打杭)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：デレゲータ 施工：富士工務	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 特殊高所技術 検査路 林道	41.0m -	片側交互通行：3日(誘導員6人) 特殊高所技術：3日 橋面等：1日、箱内：2日 伐採：一部有 駐車スペース：路肩	
3	0003-0111-01	トシバシ とどしり橋	昭和56年8月 (1981年8月) 平成14年3月 (2002年3月)	野原椎葉線 111(2級)	相良村四浦西	32° 21' 22.8"	130° 49' 32.8"	無	上下線	椎葉谷川	無	一般道	その他	無	11.4	6.6	75.24	鋼橋	非合成I桁橋(耐候性) プレテンPC単純スラブ桁橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：多良木営林署 補修履歴：なし 耐震補強：なし 使用鋼材：SMA50、SMA41 製作：新日本製鉄(株)	TL-14 二等橋 S47道示 H8道示	橋梁点検車 徒歩	4.4m 0.60m	片側交互通行：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
4	0004-0111-02	エノキバシ 榎木谷橋	平成9年4月 (1997年4月)	野原椎葉線 111(2級)	相良村四浦西	32° 21' 21.3"	130° 49' 18.0"	無	上下線	椎葉谷川	無	一般道	その他	無	19.0	8.5	161.50	鋼橋	単純非合成I桁橋 (耐候性鋼材裸仕様) 逆T式橋台(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 使用鋼材：SMA490、SMA400 製作：山九株式会社	A活荷重 H6道示	橋梁点検車 徒歩	5.5m 0.3m	片側交互通行：0.5日(誘導員1人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：路肩 耐候性鋼材裸仕様	
5	0005-0110-01	コタニバシ 小谷谷橋	昭和57年 (1982年) 拡幅不明	深水山口線 110(2級)	相良村四浦西	32° 19' 40.7"	130° 49' 33.7"	無	上下線	小谷谷川	無	一般道	その他	無	5.6	6.1	34.16	コンクリート橋	RC単純床版橋 PC単純床版橋 石積橋台(直接基礎) ブロック橋台(直接基礎)	架設者：多良木営林署 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 梯子	2.6m 0.20m	点検：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(空地)	
6	0006-0110-02	ヤマクバシ 山口橋	平成7年3月 (1995年3月)	深水山口線 110(2級)	相良村四浦西	32° 19' 33.5"	130° 49' 06.3"	無	上下線	山口谷川支川	無	一般道	その他	無	4.5	5.0	22.50	BOX橋	現場打ちホースカルバート 3900×2500	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-20 S61 標準設計	地上・梯子 梯子	2.6m 0.05m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
7	0007-0247-01	ヤマクバシ1号 山口谷一号橋	平成6年9月 (1994年9月)	小河内線 247(その他)	相良村四浦西	32° 19' 40.1"	130° 48' 48.8"	無	上下線	山口谷川	無	一般道	その他	上水道	14.1	5.2	73.32	コンクリート橋	ホーステンPC単純中空床版橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：相良村 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシナー 施工：リケン建設(株)	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 徒歩	5.2m 0.30m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩)	
8	0008-0247-02	ヤマクバシ2号 山口谷二号橋	昭和57年 (1982年)	小河内線 247(その他)	相良村四浦西	32° 19' 45.5"	130° 48' 32.7"	無	上下線	山口谷川	無	一般道	その他	無	5.0	4.0	20.00	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：多良木営林署 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 徒歩	6.7m 0.30m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩)	
9	0009-0247-03	ヤマクバシ3号 山口谷三号橋	昭和57年 (1982年)	小河内線 247(その他)	相良村四浦西	32° 19' 58.5"	130° 48' 17.5"	無	上下線	山口谷川	無	一般道	その他	無	5.4	4.0	21.60	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：多良木営林署 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 徒歩	6.5m 0.30m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
11	0011-0108-01	ナカバシ 中尾谷橋	昭和50年3月 (1975年3月)	初神野原線 108(2級)	相良村四浦西	32° 19' 13.0"	130° 50' 20.0"	無	上下線	中尾谷川	有	一般道	その他	無	10.4	7.3	75.92	コンクリート橋	プレテンPC単純I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-20 一等橋 S47道示	橋梁点検車 徒歩	5.5m 0.10m	片側交互通行：0.5日(誘導員1人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
12	0012-0108-02	フカバシ 深水橋	昭和50年1月 (1975年1月)	初神野原線 108(2級)	相良村四浦西	32° 19' 43.5"	130° 50' 22.1"	無	上下線	山口谷川	有	一般道	その他	無	16.0	4.3	68.80	鋼橋	単純非合成I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 使用鋼材： 施工：	TL-14 二等橋 S47道示	橋梁点検車 徒歩	5.0m 0.7m超え	全面通行止め：0.5日(誘導員1人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：路肩	
13	0013-0108-03	ノハラ2号 野原2号橋	昭和54年3月 (1979年3月)	初神野原線 108(2級)	相良村四浦西	32° 20' 26.1"	130° 50' 26.3"	無	上下線	椎葉谷川	有	一般道	その他	無	12.5	5.0	62.50	鋼橋	単純非合成I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 使用鋼材：SM50YA、SS41 製作：新日本製鉄(株)	TL-20 一等橋 S47道示	橋梁点検車 徒歩	5.0m 0.40m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(空地) その他：国交省へ連絡が必要	
15	0015-0253-01	ハツミダバシ 初神谷橋	昭和58年 (1983年)	小柏線 253(その他)	相良村四浦西	32° 18' 32.6"	130° 49' 50.1"	無	上下線	初神谷川	無	一般道	その他	無	4.1	4.4	18.04	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	2.9m 0.30m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：災害工事と調整が必要	
16	0016-0245-01	ハカマダバシ 袴谷橋	昭和57年 (1982年)	大谷袴谷線 245(その他)	相良村四浦東	32° 19' 09.9"	130° 50' 42.1"	無	上下線	袴谷川	有	一般道	その他	無	5.4	6.7	36.18	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	3.4m 0.05m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
17	0017-0242-01	ロクツバシ 六藤橋	昭和40年5月 (1965年5月)	六藤上平線 242(その他)	相良村四浦東	32° 17' 41.2"	130° 50' 43.8"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	無	84.7	4.7	398.09	コンクリート橋	3径間単純ホーステン桁橋 重力式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S31道示	橋梁点検車 ゴンドラ車 徒歩	8.5m 0.7m超え	全面通行止め：2.0日(誘導員4人) 橋面等：1.0日 伐採：一部有 駐車スペース：空地	

8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(結果)

上段：2巡目点検結果  
下段：1巡目点検結果

その2

橋梁台帳番号	フリガナ橋梁名	路線名	橋種	橋長(m)	架設年次※青字は推定	供用年(年)	橋梁点検日	上部工：損傷評価点				下部工：損傷評価点			支承部：損傷評価点			部材最小健全度	橋梁の健全度	評価対象区間番号	診断区分	特定損傷		所見
								上部工形式	床版	主構	床版・主構以外	上部工評価点	躯体	基礎	下部工評価点	本体	沓座					支承部評価点	ASR	
1	シババシ 椎葉橋	椎葉線 264(その他)	コンクリート橋	253.0	1990年3月	35	2021/01	99.35	76.74	91.00	74.42	73.80	100.00	82.45	99.37	100.00	99.37	73.80	63.64	BR-01/P1	予防保全段階Ⅱ	×	×	・上部工の床版(上床版)・主構(下床版・ウエブ)・箱内の側壁・底版の損傷は、部分的に軽微な損傷が確認できるが、現時点では特に問題ないと考えられる。ただし、箱内の頂板には無数のひびわれ(0.1~0.2mm)が確認でき、初期の乾燥収縮・自己収縮によるものと考えられるが、部分的に漏水遊離石灰や変色劣化が確認できるため、予防保全の観点から橋面防水・ひびわれ注入・表面含浸による補修を行う方が望ましい。 ・下部工躯体にはIAV調査で検知できなかった軽微なひびわれを確認したが、損傷は比較的軽微である。 ・鋼製支承は、軽微な腐食が生じており機会を見て支保脚補修を行う方が望ましい。 ・排水装置の目皿部は、定期的な清掃が必要であり、橋面の舗装クラックは橋面防水と同時にを行うと良い。
			4径間連続PCスパン桁橋				2016/03	99.00	33.40	91.00	30.80	87.10	100.00	91.36	99.40	100.00	99.40	33.40	25.38	BR-03	予防保全段階Ⅱ			
3	トシバシ とどしり橋	野原椎葉線 111(2級)	鋼橋	11.4	2002年3月	43	2021/11	99.02	87.00	94.10	85.04	86.00	100.00	90.62	92.50	100.00	92.50	86.00	76.41	BR-01鋼/A2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版には漏水、局部的な剥離鉄筋露出が発生しており、機会を見て補修するのが望ましい。 ・主桁・横桁には経年劣化に伴う防食機能の劣化・腐食が見られ、端横桁はフランジ部の腐食が進行している。 ・下部工は、伸縮劣化による漏水が確認でき、A2橋台のパラベットに0.4m×0.5mのうきを確認できる。 ・支保本体については、経年劣化に伴う防食機能の劣化・腐食が見られ、アンカーボルトの腐食も進行しており、防錆処理が必要と思われる。 ・その他、橋面・伸縮・排水施設・防護柵には全体的に軽微な損傷が確認できる。 ・全体的に腐食が顕在化してきている印象があるため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましいと考える。
			非合成I桁橋(耐候性) プレPC単純スパン桁橋				2017/11	98.05	93.50	95.82	91.10	86.00	100.00	90.62	96.25	100.00	96.25	86.00	83.97	BR-01/鋼橋	予防保全段階Ⅱ			
4	エキダニバシ 榎木谷橋	野原椎葉線 111(2級)	鋼橋	19.0	1997年4月	27	2021/02	88.99	100.00	100.00	91.19	86.00	100.00	90.62	75.00	100.00	75.00	75.00	75.56	BR-01/A1	予防保全段階Ⅱ	×	×	・上部工・下部工の損傷は、軽微である。 ・鋼製支承部は、伸縮からの漏水により漏水・土砂堆積が確認できたため、予防保全の観点から伸縮取替えによる補修を行う方が望ましい。 ・その他、排水管の破損が確認でき、耐候性の主桁であるため、この部位だけはすみやかに補修することが望ましい。 ・損傷は、全体的に軽微であるが、破損した排水管のみ補修した方がよい。(伸縮装置は機械を見て補修)
			単純非合成I桁橋 (耐候性鋼材裸仕様)				2016/03	93.40	96.50	100.00	91.22	86.00	100.00	90.62	75.00	100.00	75.00	75.00	75.59	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
5	コエダニバシ 小山谷橋	深水山口線 110(2級)	コンクリート橋	5.6	1982年 拡幅不明	43	2021/11	100.00	74.65	100.00	74.65	100.00	50.00	50.00	100.00	100.00	100.00	50.00	44.65	BR-01/A1-A2	早期措置段階Ⅲ	×	×	・床版(主構)は、旧橋に剥離鉄筋露出が広範囲に確認できることから、機会を見て補修することが望ましい。 ・下部工の現状は、石積(旧橋)およびブロック積(拡幅橋)の上に上部工が乗っている状態であり、構造上問題である。なお、石積橋台の隙間はモルタルで充填済みであるが、空漏れも多く残っておりさらにR2梁雨により基礎が洗堀され、石ははずれている箇所も確認できるため、早急に対策が必要である。その他、橋面からの漏水により桁下の損傷が助長されている。 ・現時点では旧橋の床版補修・橋面防水・石積橋台・基礎洗堀の対策が必要と考える。→2024措置完了済
			RC単純床版橋 PC単純床版橋				2017/12	100.00	96.65	100.00	96.65	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	96.65	96.65	BR-01	健全Ⅰ			
6	ヤマケバシ 山口橋	深水山口線 110(2級)	BOX橋	4.5	1995年3月	30	2021/11	100.00	97.52	100.00	97.52	97.85	100.00	98.56	100.00	100.00	100.00	97.52	96.66	BR-01/A1	健全Ⅰ	×	×	・頂版・側壁は、0.1~0.2mm程度のひびわれが複数確認できるが、損傷は軽微である。 ・A2側壁に土砂詰りが確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			現場打ち木軸スカルパート				2018/01	100.00	96.70	100.00	96.70	97.85	100.00	98.56	100.00	100.00	100.00	96.70	95.84	BR-01	健全Ⅰ			
7	ヤマケチニゴウバシ 山口谷一号橋	小河内線 247(その他)	コンクリート橋	14.1	1994年9月	30	2021/11	99.35	100.00	100.00	99.48	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	99.35	99.48	BR-01/A1-A2	健全Ⅰ	×	×	・床版は、排水管の周囲に漏水遊離石灰が確認できる程度で、現状は特に問題ないと考えられる。 ・下部工は、伸縮装置からと思われる漏水が確認でき、A1橋台の橋座面に土砂詰りが発生している。 ・その他、橋面・伸縮・排水施設・防護柵の損傷は軽微であるものの立地条件が山中であり、今後、水・土砂の影響による損傷の助長が懸念される。(全体的に湿潤状態の橋梁) ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。
			PC単純中空床版橋				2018/01	99.35	99.15	100.00	98.63	86.00	100.00	90.62	100.00	100.00	100.00	86.00	93.00	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
8	ヤマケチニゴウバシ 山口谷二号橋	小河内線 247(その他)	コンクリート橋	5.0	1982年	43	2021/11	100.00	88.27	100.00	88.27	84.55	100.00	89.65	100.00	100.00	100.00	84.55	82.06	BR-01/A1-A2	健全Ⅰ	×	×	・床版(主構)は、局部的な剥離鉄筋露出が発生しているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、橋座面に遊離石灰が確認でき、伸縮装置からの漏水により発生したと思われる。 ・防護柵は、ひびわれや変形欠損が確認できるが損傷は軽微である。ただし、現行基準は満足していない構造である。その他、橋面・伸縮には全体的に軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、防護柵のみ対策を検討する必要があると考える。
			RC単純床版橋				2018/01	100.00	100.00	100.00	100.00	81.65	100.00	87.71	100.00	100.00	100.00	81.65	92.63	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
9	ヤマケチニゴウバシ 山口谷三号橋	小河内線 247(その他)	コンクリート橋	5.4	1982年	43	2021/11	100.00	72.95	100.00	72.95	100.00	50.00	50.00	100.00	100.00	100.00	50.00	42.95	BR-01/A1-A2	早期措置段階Ⅲ	×	×	・床版(主構)は、地覆からの伝い水による漏水が確認でき、剥離鉄筋露出も複数確認できることから、予防保全の観点から、機会を見て補修が必要と考えられる。 ・下部工は、欠損・伸縮装置からの漏水などが確認できるが、損傷は軽微である。なお、基礎部に洗掘が確認でき、底張コンクリートによる補修が必要と考える。 ・防護柵は、橋高が高いが設置されていないため対策が必要と考える。その他、橋面・伸縮には全体的に軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では基礎洗堀の対策および防護柵設置について検討する必要があると考える。→2024措置完了済
			RC単純床版橋				2018/01	100.00	83.00	100.00	83.00	86.00	100.00	90.62	100.00	100.00	100.00	83.00	77.37	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
11	チカチカバシ 中尾谷橋	初神野原線 108(2級)	コンクリート橋	10.4	1975年3月	50	2021/11	86.35	100.00	100.00	89.08	82.77	100.00	88.46	87.00	100.00	87.00	82.77	76.96	BR-01/A1	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版は、漏水や遊離石灰(さび汁あり)が複数確認でき、遊離石灰は調査・機会を見て補修するのが望ましい。 ・主桁は、欠損やジャンクが確認できるが、損傷は軽微である。 ・下部工は、伸縮装置からの漏水およびゴム支承の劣化が確認できるが損傷は軽微であり、現時点では特に問題ない。また、躯体には乾燥収縮によるものと思われるひびわれが見受けられるが、損傷は軽微である。 ・橋面Coは衝突荷重によるクラックが複数確認でき、舗装のやり替えが必要と考える。その他、地覆の損傷は軽微であるが、防護柵の腐食・変形は機会を見て補修するのが望ましい。 ・現時点では下部工の補修は必要ないが、間詰Coの調査・橋面Coのやり替えが必要であると考える。
			プレPC単純I桁橋				2018/01	99.02	98.72	100.00	97.94	83.47	100.00	88.92	87.00	100.00	87.00	83.47	86.09	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
12	チカバシ 深水橋	初神野原線 108(2級)	鋼橋	16.0	1975年1月	50	2021/02	98.70	96.50	97.47	94.95	84.55	100.00	89.65	87.00	100.00	87.00	84.55	83.54	BR-01/A1	健全Ⅰ	×	×	・桁は部分的に軽微な腐食、ゴム支承は劣化が確認できるが、機能的には問題ない程度である。 ・また、主桁の添接部にはF11Tのボルトが使用されているため、今回確認できなかった遅れ破壊の可能性が有ることから、今後も注視する必要がある。 ・地覆は打ち継ぎ目より遊離石灰、ガードレール高欄は腐食が確認できるが、橋自体の機能に大きく影響するものではない。 ・損傷は、全体的に軽微であるが、腐食した排水管のみ補修した方がよい。(その他は不要)
			単純非合成I桁橋				2016/03	97.40	96.50	97.50	93.92	86.00	100.00	90.62	87.00	100.00	87.00	86.00	83.09	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
13	ハラニゴウバシ 野原2号橋	初神野原線 108(2級)	鋼橋	12.5	1979年3月	46	2021/11	98.70	91.50	95.37	89.53	100.00	100.00	100.00	92.50	100.00	92.50	91.50	86.53	BR-01/A2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版は、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰が確認できるが、現状は特に問題ないと考える。 ・主桁・横桁・排水管は、経年劣化による防食機能の劣化、桁端および端横桁はフランジ部の腐食が進行している。ボルトはF11Tが使用されているため、今回確認できなかった遅れ破壊の可能性が有ることから、今後も注視する必要がある。 ・下部工は、伸縮装置からの漏水漏水および橋座面の土砂堆積が確認できる。 ・支保本体は、経年劣化による防食機能の劣化・腐食が見られ、防錆処理が必要と考える。 ・その他、橋面・伸縮・地覆・排水装置・防護柵の損傷は軽微であるが、維持管理が望まれる。 ・全体的に腐食が顕在化してきている印象があるため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましいと考える。
			単純非合成I桁橋				2018/01	99.35	96.50	97.47	95.47	84.55	100.00	89.65	97.50	100.00	97.50	84.55	88.26	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
15	チカバシ 初神谷橋	小柏線 253(その他)	コンクリート橋	4.1	1983年	42	2021/11	100.00	67.92	100.00	67.92	100.00	50.00	50.00	100.00	100.00	100.00	50.00	37.92	BR-01/A1-A2	早期措置段階Ⅲ	×	×	・床版(主構)は、目地からの漏水、局部的な剥離鉄筋露出が発生しているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、表面の摩耗や欠損、伸縮装置からの漏水などが確認できるが、損傷は軽微である。なお、下流側の基礎部に洗掘が確認でき、底張コンクリートによる補修が必要と考える。 ・その他、橋面・伸縮・防護柵には全体的に軽微な損傷が確認でき、橋面の漏水が著しい。 ・現時点では橋面の漏水対策および基礎洗堀の対策について検討する必要があると考える。→2024措置完了済
			RC単純床版橋				2018/01	98.70	93.30	100.00	92.26	80.27	100.00	86.78	100.00	100.00	100.00	80.27	84.33	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
16	チカバシ 袴谷橋	大谷袴谷線 245(その他)	コンクリート橋	5.4	1982年	43	2021/12	100.00	82.15	100.00	82.15	94.59	100.00	96.38	87.00	100.00	87.00	82.15	74.78	BR-01/A2	健全Ⅰ	×	×	・床版(主構)は、軽微な遊離石灰、全体的な漏水が生じているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、パラベット上面のひびわれ、側面の軽微な欠損、遊離石灰が確認できるが、損傷は軽微である。 ・支保は、エラストイドの劣化が生じている。 ・その他、防護柵は衝突による端部の変形、ボルトの脱落が多数、舗装はA2右側端部でh=13cmの段差、伸縮装置は、両端でエラストイドの劣化が生じており、通常の維持業務で補修することが望まれる。 ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。
			RC単純床版橋				2017/12	100.00	99.15	100.00	99.15	80.60	100.00	87.00	87.00	100.00	87.00	80.60	86.15	BR-01	予防保全段階Ⅱ			
17	チカバシ 六藤橋	六藤上平線 242(その他)	コンクリート橋	84.7	1965年5月	59	2021/02	99.35	89.49	52.50	79.47	100.00	50.00	50.00	73.12	100.00	73.12	50.00	38.72	BR-03/P2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・G3主桁の鉄筋露出、P2橋脚の軽微な洗堀が確認できた。なお、架設年から鑑みるとPC鋼材は上縁定着の可能性が高いため、予防保全の観点から橋面防水を行う方が望ましい。 ・支保部は伸縮からの漏水で腐食が進行している。 ・伸縮部はバックアップ材がなく、遊間が異常に開いている状態である。このため、鋼製支保の腐食も進行していることから、予防保全の観点から伸縮装置の取替えを行う方が望ましい。 ・損傷は全体的に軽微であるが、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。
			3径間単純PCスパン桁橋				2016/03	99.00	92.90	55.50	83.20	83.20	50.00	38.74	73.10	100.00	73.10	50.00	35.68	BR-02	予防保全段階Ⅱ			



8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(橋梁諸元)

※代替路の有無は、R3.9月現在  
(R2.7月豪雨による被災道路を考慮)

※橋梁種別の青字(ボックスカルバートの寸法)は、推定

その1

橋梁 台帳 番号	橋梁 コード	フリガナ 橋 梁 名	架設年次 ※青字は推定	路 線 名	所在地	起点側の位置		距離標 (4桁表示)	上り・ 下り線	道路橋下条件 (跨いでいるもの)	代替路 の有無	自専道 一般道	当該道路橋 緊急輸送道 の種類	添架物 (名称)	二巡目後の数量			橋 梁 種 別			設計 活荷重	前回点検時の情報			
						緯度	経度								橋長 (m)	全幅員 (m)	橋面 (m2)	橋種	橋 梁 種 別			適用 示方書	調査手段 桁下アクセス等	桁下高 水深	点検時の留意点
																			上部工形式	その他 (拡幅・補修履歴等)					
18	0018-0107-01	ハルヤマノコバシ 晴山谷橋	昭和50年12月 (1975年12月)	谷尻晴山線 107(2級)	相良村四浦東	32° 17' 22.1"	130° 50' 55.8"	無	上下線	晴山谷川	有	一般道	その他	上水道 下水道	8.3	5.9	48.97	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S39RC道示	橋梁点検車 梯子	4.9m 0.50m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(空地) その他：予告看板設置		
19	0019-0240-01	ヒラカハシ 平川橋	昭和42年5月 (1967年5月)	上下坂平川線 240(その他)	相良村四浦東	32° 17' 05.7"	130° 50' 42.7"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	上水道 下水道	137.9	3.7	510.23	5径間単純桁橋 重力式橋台(直接基礎) 柱式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：2015/3/20 上下 部工補修 耐震補強：2015/3/20 耐震 補強	TL-14 二等橋 S31道示	橋梁点検車 ゴンドラ車 徒歩	10.5m 0.7m超え	全面通行止め：2.5日(誘導員5人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置		
20	0020-0261-01	メノリノコバシ 廻谷橋	平成2年 (1990年)	廻線 261(その他)	相良村川辺	32° 16' 27.0"	130° 50' 06.5"	無	上下線	白木谷川	有	一般道	その他	上水道 下水道	11.0	3.5	38.50	プレPC単純I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	2.7m 0.20m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(空地)		
21	0021-0302-01	カンノハシ 観音橋	平成27年1月 (2015年1月)	小森廻線 302(その他)	相良村川辺	32° 16' 19.9"	130° 50' 16.6"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	上水道 下水道	121.0	8.5	1,028.50	3径間連結桁橋 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：相良村 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：(株)安部日鋼工業	A活荷重 H14道示	橋梁点検車 ゴンドラ車 徒歩	11.0m 0.7m超え	片側交互通行：2.5日(誘導員5人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置		
22	0022-0105-01	モリハシ 小森橋	昭和57年 (1982年)	小森新深田線 105(2級)	相良村川辺	32° 16' 16.9"	130° 50' 21.5"	無	上下線	用水路	有	一般道	その他	無	6.4	6.7	42.88	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 梯子	1.3m 0.25m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：胴長が必要		
23	0023-0237-01	タカノハシ 高尾野橋	昭和39年9月 (1964年9月)	高尾野上川下線 237(その他)	相良村川辺	32° 16' 02.8"	130° 49' 44.6"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	上水道 下水道	90.2	3.7	333.74	3径間単純桁橋 重力式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：2016/3/11 上下 部工補修 耐震補強：2016/3/11 耐震 補強	TL-14 二等橋 S31道示	橋梁点検車 ゴンドラ車 徒歩	9.6m 0.7m超え	全面通行止め：1.5日(誘導員3人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置		
25	0025-0007-01	ウエソノハシ 上園橋	昭和57年 (1982年)	上園高原線 7(1級)	相良村川辺	32° 15' 07.9"	130° 49' 05.4"	無	上下線	川村飛行場用水路	有	一般道	その他	無	3.2	5.5	17.60	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 梯子	0.9m 0.35m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：胴長が必要		
26	0026-0223-01	ヒノウダノコバシ 別府第二橋	昭和57年 (1982年)	別府原線 223(その他)	相良村深水	32° 14' 31.0"	130° 49' 02.7"	無	上下線	別府原排水路	有	一般道	その他	無	2.5	7.5	18.75	RC単純床版橋 重力式橋台(不明)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	0.8m -	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：橋種の再確認		
27	0027-0223-02	サトウラハシ 佐土原橋	平成21年4月 (2009年4月)	別府原線 223(その他)	相良村川辺	32° 14' 51.1"	130° 49' 02.7"	無	上下線	用水路	有	一般道	その他	無	3.2	5.5	17.60	プレキャストボックスカルバート 2800×1500	架設者：熊本県農政部	T-25 H11 カルバート	地上・梯子 徒歩	1.5m -	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：路肩 点検時期に注意が必要		
28	0028-0008-01	アマタノコバシ 雨谷橋	昭和56年3月 (1981年3月)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村川辺	32° 15' 37.1"	130° 48' 56.4"	無	上下線	雨谷川	有	一般道	その他	無	11.4	5.8	66.12	プレPC単純I桁橋 逆T式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	3.7m 0.1m	点検：0.5日(大脚立) 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)		
29	0029-0008-02	クロイノコバシ 黒石谷橋	昭和48年3月 (1973年3月)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村川辺	32° 15' 52.7"	130° 49' 07.1"	無	上下線	芝落谷川	有	一般道	その他	無	15.0	5.8	87.00	単純非合成I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし 使用鋼材： 施工：	TL-14 二等橋 S47道示	地上・梯子 徒歩	2.5m 0.2m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：路肩		
30	0030-0008-03	ハシダノコバシ 橋谷橋	昭和59年3月 (1984年3月)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村川辺	32° 16' 07.4"	130° 49' 45.3"	無	上下線	橋谷川	有	一般道	その他	無	6.0	6.0	36.00	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	3.9m 0.1m	点検：0.5日(大脚立) 伐採：有 駐車スペース：有(路肩)		
31	0031-0008-04	シラキノコバシ 白木谷橋	平成1年3月 (1989年3月)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村川辺	32° 16' 25.0"	130° 50' 09.8"	無	上下線	白木谷川	有	一般道	その他	上水道 下水道	10.9	6.4	69.76	プレPC単純I桁橋 重力式橋台(直接基礎)	架設者：熊本県 補修履歴：なし 耐震補強：なし 施工：(株)技建日本	TL-20 一等橋 S53道示	地上・梯子 梯子	2.8m 0.35m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(空地)		
32	0032-0008-05	ヒラカハシ 平川谷橋	平成13年7月 (2001年7月)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村四浦西	32° 17' 07.4"	130° 50' 33.3"	無	上下線	平川谷川	有	一般道	その他	無	9.0	7.0	63.00	現場打ちボックスカルバート 8000×2200	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-25 H12 標準設計	地上・梯子 梯子	1.7m 0.10m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)		

8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(結果)

上段:2巡目点検結果  
下段:1巡目点検結果

その2

橋梁台帳番号	フリガナ 橋梁名	路線名	橋種	橋長 (m)	架設年次 ※青字は推定	供用年 (年)	橋梁 点検日	上部工:損傷評価点				下部工:損傷評価点			支保部:損傷評価点			部材最小 健全度	橋梁の 健全度	評価対象 径間番号	診断区分	特定損傷		所見
								床版	主構	床版・ 主構以外	上部工 評価点	躯体	基礎	下部工 評価点	本体	沓座	支保部 評価点					ASR	塩害	
18	ハルマダノバシ 晴山谷橋	谷尻晴山線 107(2級)	コンクリート橋	8.3	1975年12月	49	2021/12	100.00	94.12	100.00	94.12	95.72	100.00	97.13	100.00	100.00	100.00	94.12	92.40	BR-01/A1	健全 I	×	×	・床版(主構)・下部工は、局所的な剥離鉄筋露出、欠損などが確認できる程度で、損傷は軽微である。 ・その他、橋面・伸縮・排水装置・地覆・防護柵には軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			RC単純床版橋				2017/12	100.00	94.12	100.00	94.12	94.27	100.00	96.16	100.00	100.00	100.00	94.12	91.82	BR-01	予防保全段階 II			
19	ヒラカワシ 平川橋	上下坂平川線 240(その他)	コンクリート橋	137.9	1967年5月	57	2022/12	95.12	86.99	98.00	82.69	95.72	100.00	97.13	100.00	100.00	100.00	86.99	80.97	BR-05/P4, A2	健全 I	×	×	・床版・主桁・横桁には、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰、欠損、補修材の損傷などが確認できるが、いずれも損傷は軽微である。 ・下部工は、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰、欠損、滞水などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。なお、P3、P4橋脚の支保部において、ボルトのゆるみが確認でき、予防保全の観点から、機会を見て補修することが望まれる。 ・その他、As舗装・伸縮・排水施設・防護柵には損傷が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では支保部のボルト締付けのみ必要と思われるが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。
			5径間単純*ステン桁橋				2019/03	71.75	60.63	80.00	34.03	100.00	100.00	100.00	100.00	75.00	100.00	75.00	60.63	24.03	BR-04			
20	メノリダノバシ 廻谷橋	廻線 261(その他)	コンクリート橋	11.0	1990年	35	2021/12	90.25	94.97	100.00	87.17	96.77	100.00	97.84	100.00	100.00	100.00	90.25	85.87	BR-01/A1・A2	予防保全段階 II	×	×	・主構は、一部に鉄筋露出が確認でき、間詰Coは全面に遊離石灰が生じており、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、パラベット上面にひびわれ(W=0.2mm)が生じている。 ・防護柵は、A2上流側端部に衝突による支柱の亀裂及び変形、地覆は支柱基礎部分が著しく欠損、排水施設はすべての排水管で腐食、舗装はひびわれや両端の路面の凹凸(段差h=18~25mm)、全体的な舗装のうきが生じている。 ・現時点では下部工の補修は必要ないが、間詰Coの調査・橋面Coのやり替え、橋面防水が必要であると考える。
			ブレンPC単純I桁橋				2017/12	90.25	94.97	100.00	87.17	82.77	100.00	88.46	100.00	100.00	100.00	82.77	80.25	BR-01	予防保全段階 II			
21	カンノバシ 観音橋	小森廻線 302(その他)	コンクリート橋	121.0	2015年1月	10	2022/12	96.25	95.37	92.00	90.77	94.59	100.00	96.38	100.00	100.00	100.00	92.00	88.60	BR-03/P2	健全 I	×	×	・床版・主桁には、ひびわれ、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰などが確認できるが、損傷は軽微である。 ・下部工は、乾燥収縮によるひびわれ及び漏水遊離石灰などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。なお、A1、A2橋台の支保部において、ボルトのゆるみが確認でき予防保全の観点から、機会を見て補修することが望まれる。 ・その他、As舗装・伸縮・排水施設には損傷が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では支保部のボルト締付けのみ必要とおもわれるが、その他の部位の橋面・伸縮・土砂詰りについては維持工事で対応するのが望ましいと考える。
			3径間連結*ステン桁橋				2019/03	100.00	99.15	96.00	98.35	86.00	100.00	90.62	100.00	100.00	100.00	86.00	92.72	BR-01	健全 I			
22	モリバシ 小森橋	小森新深田線 105(2級)	コンクリート橋	6.4	1982年	43	2021/12	100.00	93.30	100.00	93.30	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	93.30	93.30	BR-01/A1・A2	健全 I	×	×	・床版(主構)は、中性化と推測される鉄筋露出が生じている。 ・下部工は、土砂堆積が確認できるが、損傷は見られない。 ・地覆は、A1右側に局所的なうき、舗装はA1側で段差30mmや終点で舗装のひびわれが生じている。 ・現時点では補修は必要ない。
			RC単純床版橋				2017/12	100.00	93.30	100.00	93.30	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	93.30	93.30	BR-01	予防保全段階 II			
23	タカノバシ 高尾野橋	高尾野上川下線 237(その他)	コンクリート橋	90.2	1964年9月	60	2022/12	95.12	90.34	94.00	85.24	89.64	100.00	93.06	100.00	100.00	100.00	89.64	81.08	BR-01/P1	健全 I	×	×	・床版・主桁・横桁には、ひびわれ、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰、補修材の損傷などが確認できるが、いずれも損傷は軽微である。 ・下部工は、ひびわれ、剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰、滞水などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・その他、As舗装・伸縮・排水施設・防護柵には損傷が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、その他の部位の橋面・伸縮・防護柵については維持工事で対応するのが望ましいと考える。
			3径間単純*ステン桁橋				2019/03	96.75	82.65	15.00	63.05	82.78	100.00	88.46	100.00	100.00	100.00	15.00	56.13	BR-01	健全 I			
25	ウエンソバシ 上園橋	上園高原線 7(1級)	コンクリート橋	3.2	1982年	43	2021/12	100.00	90.77	100.00	90.77	95.72	100.00	97.13	100.00	100.00	100.00	90.77	89.05	BR-01/A1	健全 I	×	×	・床版(主構)は、剥離・鉄筋露出、うき、漏水・遊離石灰、漏水・滞水が生じているが、損傷は軽微である。 ・下部工は、A1に軽微な剥離・鉄筋露出が生じている。 ・その他、防護柵は衝突による変形、地覆は防護柵支柱の変形による欠損、舗装はA1側に段差32mmが生じている。 ・現時点では補修は必要ない。
			RC単純床版橋				2018/01	100.00	77.12	100.00	77.12	95.72	100.00	97.13	100.00	100.00	100.00	77.12	75.40	BR-01	予防保全段階 II			
26	ヒユウダノバシ 別府第二橋	別府原線 223(その他)	コンクリート橋	2.5	1982年	43	2021/12	100.00	78.37	100.00	78.37	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	78.37	78.37	BR-01/A1・A2	予防保全段階 II	×	×	・床版(主構)は、滞水による剥離・鉄筋露出、漏水遊離石灰が生じており、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、損傷は見られず健全である。 ・その他、舗装は経年変化によるひびわれが全体的に生じているが、段差はないため走行性に支障はない。 ・現時点では補修は必要ないが、床版部の滞水対策のみ行う方が望ましいと考える。	
			RC単純床版橋				2017/12	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	BR-01				健全 I
27	サトウラバシ 佐土原橋	別府原線 223(その他)	BOX橋	3.2	2009年4月	15	2021/01	100.00	100.00	100.00	100.00	97.15	100.00	98.09	100.00	100.00	100.00	97.15	98.85	BR-01/A1	健全 I	×	×	・ボックスの側壁にうきが2箇所、製品の目地部からの漏水が1箇所確認できる程度で、全体的に健全である。
			プレキャストボックスカルバート				不明																	
28	アマダノバシ 雨谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	コンクリート橋	11.4	1981年3月	44	2021/12	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	BR-01/A1・A2	健全 I	×	×	・主構は、一部に軽微な欠損が生じているが、全体的に健全である。 ・A1橋台及び両側の支保は健全であり、A2橋台は下流側の一部に軽微な欠損が生じているが、全体的に健全である。 ・その他、防護柵はボルトの脱落・防食機能の劣化、地覆(親柱)は軽微な欠損・右側(下流)側面にうき、舗装は両端に路面の凹凸(h=30mmの段差)の軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			ブレンPC単純I桁橋				2017/12	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	BR-01			
29	クイシダノバシ 黒石谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	鋼橋	15.0	1973年3月	52	2021/01	95.27	81.50	94.95	76.71	100.00	100.00	100.00	73.75	100.00	73.75	73.75	66.21	BR-01/A1	予防保全段階 II	×	×	・桁全体に軽微な腐食、縦支保の軽微な腐食・土砂堆積が確認できるが、機能的には問題ない程度である。 ・また、主桁の添接部にはFITのボルトが使用されているため、今回確認できなかった遅れ破壊の可能性があることから、今後も注視する必要がある。 ・さらに、主桁の下フランジ上面に原因不明の孔食(もしくは欠損)が確認できるため、今後も注視する必要がある。 ・路面は、滞水がひどいため、排水装置の清掃もしくは舗装打替えが必要である。 ・損傷は、全体的に軽微であるが、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。
			単純非合成I桁橋				2016/04	94.60	85.00	100.00	80.68	79.60	100.00	86.33	75.00	100.00	75.00	75.00	62.48	BR-01	予防保全段階 II			
30	ハンダノバシ 橋谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	コンクリート橋	6.0	1984年3月	41	2021/12	100.00	83.00	100.00	83.00	97.85	100.00	98.56	87.00	100.00	87.00	83.00	76.94	BR-01/A2	健全 I	×	×	・床版(主構)は、全体的に滞水が生じているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・A1橋台は、漏水・遊離石灰、A2橋台はひびわれ、部分的な支保の劣化が生じているが、損傷は軽微である。 ・その他、防護柵は防食機能の劣化、伸縮装置は漏水、地覆は親柱に剥離・鉄筋露出、舗装は地覆際に土砂詰りが生じている。 ・現時点では補修は必要ないが、維持工事で床版部の滞水対策のみ行う方が望ましいと考える。
			RC単純床版橋				2018/01	100.00	100.00	100.00	100.00	82.40	100.00	88.21	100.00	100.00	100.00	82.40	92.93	BR-01	予防保全段階 II			
31	シラキノバシ 白木谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	コンクリート橋	10.9	1989年3月	36	2021/12	99.35	100.00	100.00	99.48	94.62	100.00	96.40	100.00	100.00	100.00	94.62	97.32	BR-01/A1	健全 I	×	×	・床版は、パチ部で軽微な漏水・遊離石灰、滞水が生じているが、主構は損傷は見られず健全である。 ・A1橋台は、壁面にひびわれ(W=0.4~0.1mm)が生じているが、損傷は軽微である。 ・その他、防護柵は右側(下流側)の隅切り部で軽微な腐食、防食機能の劣化、軽微な変形、ボルトのゆるみ、地覆はひびわれ(W=0.2mm)、舗装は路面の凹凸(段差h=30~35mm)、経年劣化によるひびわれやポットホール、排水施設は土砂詰りが生じているが、いずれも損傷は軽微である。 ・現時点では補修は必要ない。
			ブレンPC単純I桁橋				2017/12	99.35	100.00	100.00	99.48	81.32	100.00	87.48	100.00	100.00	100.00	81.32	91.97	BR-01	予防保全段階 II			
32	ヒラコガノバシ 平川谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	BOX橋	9.0	2001年7月	23	2021/11	100.00	95.02	100.00	95.02	94.62	100.00	96.40	100.00	100.00	100.00	94.62	92.86	BR-01/A2	健全 I	×	×	・頂版・側壁は、ひびわれ、欠損、剥離鉄筋露出が確認できるが、いずれも損傷は軽微である。 ・その他、防護柵は経年劣化による防食機能の低下が見受けられる。 ・現時点では補修は必要ない。
			現場打ちボックスカルバート				2018/01	100.00	97.52	100.00	97.52	96.77	100.00	97.84	100.00	100.00	100.00	96.77	96.22	BR-01	健全 I			

8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(橋梁諸元)

※代替路の有無は、R3.9月現在  
(R2.7月豪雨による被災道路を考慮)

※橋梁種別の青字(ボックスカルバートの寸法)は、推定

その1

橋梁 台帳 番号	橋梁 コード	フリガナ 橋 梁 名	架設年次 ※青字は推定	路 線 名	所在地	起点側の位置		距離標 (4桁表示)	上り・ 下り線	道路橋下条件 (跨いでいるもの)	代替路 の有無	自専道 一般道	当該道路橋 緊急輸送道 の種類	添架物 (名称)	二巡目後の数量			橋 梁 種 別		設計 活荷重	前回点検時の情報				
						緯度	経度								橋長 (m)	全幅員 (m)	橋面 (m2)	橋種	橋 梁 種 別		適用 示方書	調査手段 桁下アクセス等	桁下高 水深	点検時の留意点	
																			上部工形式						その他 (拡幅・補修履歴等)
33	0033-0008-06	ロウツクニハシ 六藤谷橋	昭和59年 (1984年)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村四浦西	32° 17' 40.0"	130° 50' 36.2"	無	上下線	六藤谷川	無	一般道	その他	無	10.0	3.6	36.00	鋼橋	単純非合成I桁橋 重力式+石積橋台 (直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 徒歩	5.0m 0.10m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(空地)	
34	0034-0008-07	ハツチンショバシ 発電所橋	昭和59年 (1984年)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村四浦西	32° 17' 40.2"	130° 50' 38.7"	無	上下線	余水路	無	一般道	その他	無	11.0	3.6	39.60	コンクリート橋	2径間(連続)RC床版橋 +RCT桁橋 重力式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 余水路への 侵入は禁止	2.9m -	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(空地) その他：JNCとの調整が必要	
35	0035-0008-08	セハセハシ 瀬馳橋	昭和59年 (1984年)	永江瀬馳線 8(1級)	相良村四浦西	32° 18' 16.4"	130° 50' 40.0"	無	上下線	初神谷川	有	一般道	その他	上水道	10.6	7.3	77.38	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	橋梁点検車 長梯子	5.0m 0.20m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置 その他：災害工事と調整が必要	
36	0036-0228-01	ニソバシ 新層橋	平成7年3月 (1995年3月)	永江榎木谷線 228(その他)	相良村川辺	32° 15' 13.7"	130° 48' 38.7"	無	上下線	新層谷川	有	一般道	その他	上水道 下水道	5.6	5.0	28.00	BOX橋	現場打ちボックスカルバート 5000×3000	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-20 S61 標準設計	地上・梯子 徒歩	2.3m 0.05m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(公民館)	
37	0037-0006-01	カハラシ 相良橋	平成12年1月 (2000年1月)	前田松馬場線 6(1級)	相良村深水	32° 14' 22.6"	130° 48' 38.7"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	上水道 下水道	87.5	13.5	1,181.25	コンクリート橋	2径間単純ボックスカルバート 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：相良村 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：川田建設(株)	B活荷重 H6道示	橋梁点検車 徒歩	7.2m 0.7m超え	片側交互通行：2日(誘導員4人) 橋面等：1日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩) その他：洪水被害有 その他：予告看板設置	
39	0039-0215-01	ミョウトバシ 夫婦橋	平成2年10月 (1990年10月)	松葉新並木線 215(その他)	相良村深水	32° 14' 02.0"	130° 47' 58.1"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	下水道	105.0	10.3	1,081.50	コンクリート橋	3径間単純ボックスカルバート 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：相良村 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：住友建設(株)	TL-20 一等橋 S53道示	橋梁点検車 特殊高所技術 A1：不可 A2：徒歩	15.8m 0.7m超え	片側交互通行：2日(誘導員4人) 特殊高所技術：2日 橋面等：1日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置	
42	0042-0101-01	ヤツバシ 八ツ田橋	平成16年3月 (2004年3月)	八ツ田井沢線 101(2級)	相良村柳瀬	32° 12' 35.3"	130° 48' 02.0"	無	上下線	道路	有	一般道	その他	下水道	3.7	6.0	22.20	BOX橋	現場打ちボックスカルバート 3000×3500	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-25 H12 標準設計	地上・梯子 徒歩	3.5m なし	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(河川堤防) その他：洪水被害有	
43	0043-0101-02	ゴンゲンバシ 権現橋	昭和51年3月 (1976年3月)	八ツ田井沢線 101(2級)	相良村柳瀬	32° 12' 34.7"	130° 48' 02.8"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	上水道 φ100 下水道 φ150	189.6	5.9	1,118.64	コンクリート橋	6径間単純ボックスカルバート 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：2018補修 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：南日本高圧コン	TL-14 二等橋 S50道示	橋梁点検車 徒歩 梯子	8.0m 0.7m超え	全面通行止め：4日(誘導員8人) 橋面等：1日 伐採：無 駐車スペース：高水敷 流木の撤去が必要	
45	0045-0109-01	オカミバシ 大神橋	平成6年6月 (1994年6月)	大谷初神線 109(2級)	相良村四浦西	32° 18' 43.9"	130° 50' 51.3"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	無	99.2	8.0	793.60	コンクリート橋	3径間単純ボックスカルバート 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：相良村 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：リョウ建設(株)	TL-20 一等橋 H2道示	橋梁点検車 特殊高所技術 A1：不可 A2：徒歩	18.3m 0.7m超え	全面通行止め：2日(誘導員4人) 特殊高所技術：2日 橋面等：1日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置	
46	0046-0249-01	フジタニバシ 藤田谷橋	昭和57年 (1982年)	山手夜狩尾線 249(その他)	相良村四浦東	32° 20' 18.7"	130° 52' 50.7"	無	上下線	藤田谷川	無	一般道	その他	無	2.7	7.0	18.90	BOX橋	現場打ちボックスカルバート 2000×2000	架設者：多良木営林署 補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-20 S50 標準設計	地上・梯子 徒歩	2.0m 0.10m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩)	
47	0047-0290-01	ウツバシ 牛駄場橋	昭和55年3月 (1980年3月)	牛駄場山手線 290(その他)	相良村四浦東	32° 20' 04.1"	130° 52' 05.1"	無	上下線	藤田谷川	無	一般道	その他	無	11.4	5.0	57.00	コンクリート橋	プレPC単純I桁橋 半重力式橋台(直接基礎)	架設者：熊本県 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-14 二等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	3.9m 0.70m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：胴長が必要	
48	0048-0291-01	ヤスギバシ やすらぎ橋	平成8年3月 (1996年3月)	西原線 291(その他)	相良村深水	32° 14' 16.0"	130° 47' 47.7"	無	上下線	新層川	有	一般道	その他	無	9.0	6.2	55.80	BOX橋	現場打ちボックスカルバート 8000×3000	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-14 S61 標準設計	ボート 徒歩	3.0m 1.8m	ボートによる点検：1.0日 伐採：無 駐車スペース：有(路肩) その他：水深が深いので注意	
49	0049-0297-01	ニソクニバシ 西谷橋	平成13年3月 (2001年3月)	柿内線 297(その他)	相良村四浦東	32° 17' 22.6"	130° 50' 56.4"	無	上下線	晴山谷川支川	有	一般道	その他	上水道 下水道	4.4	4.6	20.24	コンクリート橋	RC単純床版橋 重力式橋台(直接基礎)	補修履歴：なし 耐震補強：なし	A活荷重 H8道示	橋梁点検車 梯子	4.0m 0.15m	全面通行止め：0.5日(誘導員0.5人) 橋面等：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(空地) その他：予告看板設置	
50	0050-0298-03	シツカバシ 新深水橋	平成17年3月 (2005年3月)	新深水線 298(その他)	相良村四浦東	32° 19' 34.2"	130° 50' 28.3"	無	上下線	川辺川	有	一般道	その他	無	88.0	6.2	545.60	コンクリート橋	2径間連続ボックスカルバート A1逆T式橋台(場所打杭) A2逆T式橋台(深礎杭) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：R2被災 耐震補強：なし 定着方式：フレシネー 施工：日本ヒース	A活荷重 H8道示	橋梁点検車 特殊高所技術	11.5m 0.7m超え	全面通行止め：2日(誘導員4人) 特殊高所技術：1日 橋面等：1日 伐採：一部有 駐車スペース：駐車場有 スズメバチの巣に注意	



8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(結果)

上段：2巡目点検結果  
下段：1巡目点検結果

その2

橋梁台帳番号	フリガナ 橋梁名	路線名	橋種	橋長 (m)	架設年次 ※青字は推定	供用年 (年)	橋梁 点検日	上部工：損傷評価点				下部工：損傷評価点			支承部：損傷評価点			部材最小 健全度	橋梁の 健全度	評価対象 径間番号	診断区分	特定損傷		所見
								上部工形式	床版	主構	床版・ 主構以外	上部工 評価点	躯体	基礎	下部工 評価点	本体	沓座					支承部 評価点	ASR	
33	ウツガノコバシ 六藤谷橋	永江瀬馳線 8(1級)	鋼橋	10.0	1984年	41	2021/11	86.35	93.00	94.95	81.07	100.00	100.00	100.00	90.62	100.00	90.62	86.35	77.32	BR-01/A1-A2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版は、剥離鉄筋露出、滞水が確認できるが、損傷は軽微である。 ・主桁・横桁は、経年劣化による防食機能の劣化・腐食が見られ、ボルトはF11Tが使用されているため、今回確認できなかった遅れ破壊の可能性があることから、今後も注視する必要がある。 ・下部工は、滞水および土砂堆積が確認できるが、損傷は軽微である。 ・支承部は、経年劣化による防食機能の劣化・腐食が見られ、防錆処理が必要と考える。 ・その他、橋面・伸縮・防護欄には軽微な損傷が確認できる。 ・線支承の腐食及び他の部位も腐食が顕在化しているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましいと考える。
			単純非合成I桁橋				2017/12	99.35	96.00	96.60	94.80	86.00	100.00	90.62	65.62	100.00	65.62	65.62	75.42	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
34	ハツシヨバシ 発電所橋	永江瀬馳線 8(1級)	コンクリート橋	11.0	1984年	41	2021/11	84.47	89.17	100.00	76.75	90.70	100.00	93.77	99.37	100.00	99.37	84.47	72.76	BR-02/A2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版は、地覆からの伝い水による滞水、漏水遊離石灰、ひびわれが確認できるが、損傷は軽微である。 ・主桁は、側面に0.5mmのひびわれ、桁端部に鉄筋露出などが発生しているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、A2橋台に0.25~5.0mmのひびわれ(斜め方向)が確認でき、機会を見て補修するのが望ましい。 ・支承部は、鋼板支承であり経年劣化に伴う防食機能の劣化・腐食が見られるが軽微である。 ・その他、橋面・Co防護欄には軽微な損傷が確認できる。 ・主桁のひびわれ・鉄筋露出、A2橋台のひびわれは、予防保全の観点から補修を検討するのが良いと考える。
			2径間(連続)RC床版橋+RCT桁橋				2017/12	100.00	90.82	100.00	90.82	96.77	100.00	97.84	100.00	100.00	100.00	90.82	89.52	BR-02	予防保全段階Ⅱ	×	×	
35	セバセバシ 瀬馳橋	永江瀬馳線 8(1級)	コンクリート橋	10.6	1984年	41	2021/11	100.00	82.17	100.00	82.17	83.85	100.00	89.18	100.00	100.00	100.00	82.17	75.68	BR-01/A1	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版(主構)は、地覆からの伝い水による滞水およびひびわれが確認できるが軽微である。 ・下部工は、伸縮装置からの滞水が確認でき、A1橋台は局部的にひびわれや欠損が確認できるが軽微である。 ・その他、橋面Coには衝突荷重によるクラックが複数確認でき、舗装のやり替えが必要と考える。また、防護欄には軽微な損傷が確認できるが軽微である。 ・A1橋台のひびわれおよびCo舗装のひびわれは、予防保全の観点から補修を検討するのが良いと考える。
			RC単純床版橋				2017/12	100.00	99.17	100.00	99.17	81.70	100.00	87.74	100.00	100.00	100.00	81.70	91.81	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
36	コバシ 新層橋	永江榎木谷線 228(その他)	BOX橋	5.6	1995年3月	30	2021/11	100.00	92.57	100.00	92.57	90.32	100.00	93.51	100.00	100.00	100.00	90.32	88.68	BR-01/A2	健全Ⅰ	×	×	・頂版・側壁には、乾燥収縮による0.2mm程度のひびわれが複数と0.1mm以下のひびわれが全面に確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・その他、路面は軽微な段差が確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			現場打ちホツカスカ舗装				2017/12	100.00	95.05	100.00	95.05	90.32	100.00	93.51	100.00	100.00	100.00	90.32	91.16	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
37	カハラバシ 相良橋	前田松馬場線 6(1級)	コンクリート橋	87.5	2000年1月	25	2021/11	100.00	94.97	97.00	94.37	82.40	100.00	88.21	100.00	100.00	100.00	82.40	87.30	BR-02/A2	健全Ⅰ	×	×	・主桁・横桁には、R2洪水による変形欠損およびジャンカが複数確認できるため、予防保全の観点から、機会を見て補修することが望ましい。また、排水施設・落橋防止もR2洪水により排水管・取付金具の破断および防護カバーの脱落が確認できる。 ・下部工は、ひびわれおよび漏水遊離石灰、滞水などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・その他、伸縮部に20mm以上の段差、橋面防水済みAs舗装には無数のクラック(ポットホール含む)、地覆Coには欠損・ひびわれ、防護欄は防食機能の劣化、ボルトのゆるみなどが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、維持工事で排水管のみ対策を行う方が望ましいと考える。
			2径間単純ホツステン桁橋				2017/12	99.35	97.52	100.00	97.00	81.32	100.00	87.48	100.00	100.00	100.00	81.32	89.49	BR-02	予防保全段階Ⅱ	×	×	
39	ミョウバシ 夫婦橋	松葉新並木線 215(その他)	コンクリート橋	105.0	1990年10月	34	2021/12	97.07	96.65	98.00	93.91	69.19	100.00	79.36	100.00	100.00	100.00	69.19	81.53	BR-01/P1	予防保全段階Ⅱ	×	×	・床版・主桁には、剥離鉄筋露出が点在して複数発生していることから、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、乾燥収縮によるひびわれ及び剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。なお、橋面土砂堆積が発生しているため、維持管理で対応することが望まれる。 ・その他、As舗装にはクラックが複数確認でき、桁下に遊離石灰が見受けられるため、橋面防水が必要と考える。また、その他伸縮Coにひびわれ・劣化、地覆遊間のシール材の欠損、防護欄は防食機能の劣化、ボルトのゆるみが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では橋面防水のみ必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。→2024補修着手中
			3径間単純ホツステン桁橋				2017/12	96.10	83.00	98.00	79.48	82.40	100.00	88.21	75.00	100.00	75.00	62.41	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×		
42	ヤツガバシ 八ツ田橋	八ツ田井沢線 101(2級)	BOX橋	3.7	2004年	21	2021/11	100.00	93.40	100.00	93.40	93.17	100.00	95.42	100.00	100.00	100.00	93.17	90.65	BR-01/A1	健全Ⅰ	×	×	・頂版と側壁は、乾燥収縮によるひびわれ、滞水が確認できるが、損傷は軽微である。 ・その他、防護欄は経年劣化による防食機能の低下が見受けられ、ボックス内はR2洪水の越水による土砂洗堀が確認できる。 ・構造物本体には影響ないが、ボックス内の側溝が露出した状態のため対策する必要がある。
			現場打ちホツカスカ舗装				2017/12	100.00	97.50	100.00	97.50	94.60	100.00	96.38	100.00	100.00	100.00	94.60	95.33	BR-01	健全Ⅰ	×	×	
43	ゴンゴンバシ 権現橋	八ツ田井沢線 101(2級)	コンクリート橋	189.6	1976年3月	49	2021/02	100.00	82.22	100.00	82.22	64.50	100.00	76.22	87.00	71.00	79.75	64.50	59.85	BR-03/P3	予防保全段階Ⅱ	×	×	・本橋は、前回点検後に補修工事を行っており全体的に健全な状態に戻っていたが、令和2年7月豪雨の洪水により損傷していた。洪水および洪水土砂除去時の重機による損傷は、主桁補修箇所の欠損・下部工の表面被覆の損傷・排水管の破損・防護欄の変形等が主であったが、構造的な欠陥は見受けられなかった。なお、洪水により桁間に流木が引っ掛かっていたが、点検時にすべて除去した。 ・なお、先の補修工事では支承の補修は行っておらず、ゴム支承の鋼板が露出した状態となったため、支承のさび止めを行う方が良い。
			6径間単純ホツステン桁橋				2016/03	93.40	39.80	89.50	32.42	76.40	100.00	84.19	62.00	0.00	37.00	0.00	0.00	BR-03	予防保全段階Ⅱ	×	×	
45	材カバシ 大神橋	大谷初神線 109(2級)	コンクリート橋	99.2	1994年6月	30	2021/12	82.60	95.87	93.50	80.65	79.55	100.00	86.30	100.00	100.00	100.00	79.55	72.43	BR-03/P2	予防保全段階Ⅱ	×	×	・P2-A2の上流側主桁において、型枠の早期脱着による橋軸方向0.2mm~0.3mmのひびわれが確認できるが、漏水遊離石灰やさび等がないことから、現状は特に問題ない。また、その他床版・主桁・横桁の損傷は軽微であるが、横桁の一部に橋面からの漏水と思われる損傷が確認できるため、橋面防水が必要と考える。 ・下部工において、乾燥収縮によるひびわれ及び剥離鉄筋露出、漏水遊離石灰などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。なお、P1橋脚下部には凍害と思われる鉄筋露出が確認できる。 ・その他、As舗装・伸縮・排水施設・防護欄には損傷が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・現時点では橋脚の鉄筋露出・橋面防水のみ必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。
			3径間単純ホツステン桁橋				2017/12	95.60	97.52	100.00	94.00	83.47	100.00	88.92	75.00	100.00	75.00	75.00	77.35	BR-03	予防保全段階Ⅱ	×	×	
46	フジタノコバシ 藤田谷橋	山手夜狩尾線 249(その他)	BOX橋	2.7	1982年	43	2021/11	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	BR-01/A1-A2	健全Ⅰ	×	×	・床版は、滞水が確認できる。 ・側壁は、欠損および摩耗が確認できるが、損傷は軽微である。 ・現時点では補修は必要ない。
			現場打ちホツカスカ舗装				2017/12	100.00	100.00	100.00	100.00	98.55	100.00	99.03	100.00	100.00	100.00	98.55	99.42	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
47	ウツガバシ 牛駄場橋	牛駄場山手線 290(その他)	コンクリート橋	11.4	1980年3月	45	2021/11	87.00	100.00	100.00	89.60	96.77	100.00	97.84	100.00	100.00	100.00	87.00	88.30	BR-01/A2	健全Ⅰ	×	×	・床版は、地覆からの伝い水による滞水が確認できる。 ・主桁は、欠損が確認できるが、損傷は軽微である。 ・下部工は、ひびわれ、剥離鉄筋露出、漏水滞水、施工継目を確認できたが、いずれも損傷は軽微である。 ・排水管は、R2洪水の影響により破断したと考えられ、桁下面に滞水を招いている。 ・その他、橋面・地覆・防護欄には軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では主構造物の補修は必要ないが、維持工事で排水管のみ対策を行う方が望ましいと考える。
			プレPC単純I桁橋				2017/12	100.00	100.00	100.00	100.00	78.47	100.00	85.57	100.00	100.00	100.00	78.47	91.34	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
48	ヤスラギバシ やすらぎ橋	西原線 291(その他)	BOX橋	9.0	1996年3月	29	2021/12	100.00	96.70	100.00	96.70	97.85	100.00	98.56	100.00	100.00	100.00	96.70	95.84	BR-01/A1-A2	健全Ⅰ	×	×	・頂版・側壁は、乾燥収縮によるひびわれ0.1~0.2mmが複数確認でき、端部には地覆からの伝い水による滞水が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・袖壁は、ひびわれ、漏水遊離石灰、施工継目、かぶり不足による鉄筋露出が確認できるが、損傷は軽微である。 ・その他、橋面・防護欄には軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			現場打ちホツカスカ舗装				2018/01	100.00	97.50	100.00	97.50	97.85	100.00	98.56	100.00	100.00	100.00	97.50	96.64	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
49	コシクバシ 西谷橋	柿内線 297(その他)	コンクリート橋	4.4	2001年	24	2021/12	100.00	100.00	100.00	100.00	84.55	100.00	89.65	100.00	100.00	100.00	84.55	93.79	BR-01/A1	健全Ⅰ	×	×	・床版(主構)には、損傷は確認できなかった。 ・下部工は、滞水、A1橋台の施工継目に遊離石灰が確認できるが、いずれも損傷は軽微である。 ・その他、橋面・伸縮・防護欄には軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では補修は必要ない。
			RC単純床版橋				2018/01	100.00	99.15	100.00	99.15	84.55	100.00	89.65	100.00	100.00	100.00	84.55	92.94	BR-01	予防保全段階Ⅱ	×	×	
50	シツカバシ 新深水橋	新深水線 298(その他)	コンクリート橋	88.0	2005年3月	20	2021/02	100.00	97.50	100.00	97.50	86.00	0.00	0.00	100.00	100.00	100.00	0.00	37.50	BR-02/A2	緊急措置段階Ⅳ	×	×	・本橋は、令和2年7月豪雨の洪水により基礎杭が露出し通行止め・応急復旧の対策が行われている。したがって、緊急措置段階のⅣとした。→2024補修完了済 ・ただし、その他の部位は軽微な損傷が数箇所確認できる程度で健全である。
			2径間連続ホツステン桁橋				2016/03	100.00	62.80	97.00	62.20	86.00	100.00	90.62	100.00	100.00	100.00	62.80	56.57	BR-02	予防保全段階Ⅱ	×	×	

8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(橋梁諸元)

※代替路の有無は、R3.9月現在  
(R2.7月豪雨による被災道路を考慮)

※橋梁種別の青字(ボックスカルバートの寸法)は、推定

その1

橋梁台帳番号	橋梁コード	フリガナ 橋梁名	架設年次 ※青字は推定	路線名	所在地	起点側の位置		距離標 (m)	上り・ 下り線	道路橋下条件 (跨いでいるもの)	代替路 の有無	自専道 一般道	当該道路橋 緊急輸送道 の種類	添架物 (名称)	二巡目後の数量			橋梁種別		設計 活荷重	前回点検時の情報				
						緯度	経度								橋長 (m)	全幅員 (m)	橋面 (m <sup>2</sup> )	橋種	橋梁種別		適用 示方書	調査手段 桁下アクセス等	桁下高 水深	点検時の留意点	
																			上部工形式						その他 (拡幅・補修履歴等)
51	0051-0299-01	ミヤマバシ 深山橋	昭和52年3月 (1977年3月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 19' 40.8"	130° 50' 21.3"	無	上下線	山口谷川	有	一般道	その他	上水道 φ50	135.0	7.3	985.50	鋼橋	逆ランガー桁橋 A1控え壁式橋台(直接) A2半重力式橋台(直接) P1・P2その他(直接)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：1989塗装 耐震補強：なし 使用鋼材：SM50, SM41, SS41 製作：宮地鉄工所	TL-20 一等橋 S47道示	橋梁点検車 特殊高所技術	50m以上 0.7m超え	片側交互通行：4日(誘導員8人) 特殊高所技術：3日 橋面等：1日 伐採：有 駐車スペース：路肩 オオスズメバチに注意	
52	0052-0299-02	タケハシ 竹野橋	昭和63年8月 (1988年8月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 20' 12.5"	130° 50' 18.8"	無	上下線	堂迫谷	有	一般道	その他	無	56.5	8.7	491.55	コンクリート橋	4径間連続RC床版橋 (8径間) 逆T式橋台(直接基礎) T型橋脚柱角型(深礎杭)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式： 施工：	TL-20 一等橋 S53道示	地上・梯子 徒歩	5.6m -	橋梁点検車が使用できない 点検：1日 伐採：無 駐車スペース：路肩	
53	0053-0299-03	タケハシ 嶽野橋	昭和57年10月 (1982年10月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 20' 31.5"	130° 50' 12.5"	無	上下線	ゴメキ谷	有	一般道	その他	無	40.0	6.7	268.00	コンクリート橋	単純ホーストン箱桁橋 A1半重力式橋台(直接) A2逆T式橋台(直接)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシナー 施工：住友建設(株)	TL-20 一等橋 S53道示	橋梁点検車 梯子 ロープ	16.0m -	片側交互通行：1.0日(誘導員2人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩)	
54	0054-0299-04	タケノコウキョウ 嶽野2号橋	昭和62年8月 (1987年8月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 20' 36.4"	130° 50' 10.2"	無	上下線	谷	有	一般道	その他	無	30.5	6.7	204.35	コンクリート橋	単純ホーストン桁橋 逆T式橋台(深礎杭)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式： 施工：	TL-20 一等橋 S53道示	橋梁点検車 徒歩 梯子	5.0m -	片側交互通行：0.5日(誘導員1人) 橋面等：1日 伐採：有 駐車スペース：路肩	
55	0055-0299-05	コヒラハシ 小平橋	昭和63年5月 (1988年5月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 20' 38.9"	130° 50' 08.3"	無	上下線	小平谷	有	一般道	その他	無	22.6	8.2	185.32	コンクリート橋	単純ホーストン桁橋 重力式橋台 (直接基礎(台座コン))	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：フレシナー 施工：ビースコンクリート(株)	TL-20 一等橋 S53道示	橋梁点検車 梯子 ロープ	13.0m -	片側交互通行：1.0日(誘導員2人) 橋面等：0.5日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩)	
56	0056-0299-06	ハラバシ 野原橋	昭和63年3月 (1988年3月)	深水域原線	相良村四浦西	32° 20' 41.5"	130° 50' 08.1"	無	上下線	椎葉谷川	有	一般道	その他	無	145.0	6.2	899.00	コンクリート橋	3径間連続ホーストン箱桁橋 A1ラーメン式橋台(直接基礎) A2逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎)	架設者：九州地方建設局 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式：ディビダーク 施工：住友建設(株)	TL-20 一等橋 S53道示	橋梁点検車 特殊高所技術 梯子 検査路	50.0m 0.7m超え	全面通行止め：2日(誘導員4人) 特殊高所技術：2日 橋面等：1日、箱内：1日 伐採：有 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置 その他：スズメバチの巣あり	
57	0057-0301-01	イザカハシ 井沢橋	平成18年3月 (2006年3月)	新村井沢線	相良村柳瀬	32° 13' 01.1"	130° 48' 02.0"	無	上下線	用水路	有	一般道	その他	無	2.1	5.0	10.50	BOX橋	プレキャストボックスカルバート 1800×1800	補修履歴：なし 耐震補強：なし	T-25 H11 カルバート	地上・梯子 梯子	1.8m 0.1m	点検：0.5日 伐採：無 駐車スペース：有(廃止道路)	
58	0058-0304-01	ハカマダニコウキョウ 袴谷2号橋	平成12年12月 (2000年12月)	袴谷線	相良村四浦東	32° 19' 07.7"	130° 50' 39.3"	無	上下線	袴谷川	有	一般道	その他	無	10.6	6.4	67.84	コンクリート橋	プレテンPC単純スラブ桁橋 逆T式橋台(直接基礎)	架設者：九州農政局 補修履歴：なし 耐震補強：なし	TL-20 不明	橋梁点検車 梯子	6.4m 0.05m	全面通行止め：0.5日(誘導員1人) 橋面等：0.5日 伐採：あり 駐車スペース：有(路肩) その他：予告看板設置	
59	0059-0305-01	サカライハシ 相良大橋	平成5年2月 (1993年2月)	清流川辺川線	相良村深水	32° 14' 43.5"	130° 48' 34.7"	無	上下線	川辺川	有	一般道	二次相当	無	313.0	10.0	3,130.00	コンクリート橋	1径間ホーストン単純中空床版 +4径間連続ホーストン箱桁橋 逆T式橋台(直接基礎) 壁式橋脚(直接基礎) 柱式橋脚(直接・ケトン)	架設者：熊本県農政部 補修履歴：なし 耐震補強：なし 定着方式： 施工：コア工業・大東工業	TL-20 一等橋 H2道示	橋梁点検車 特殊高所技術 徒歩 梯子	20.0m 0.7m超え	片側交互通行：6日(誘導員16人) 特殊高所技術：5日 橋面等：1日、箱内：2日 伐採：有(A2側のみ) 駐車スペース：駐車場有	
															15,040.77			30橋	橋梁点検車						
															1,053.60			10橋	特殊高所技術、ゴンドラ車						
															238.50			21橋	地上・梯子、ポート						
全体合計															16,332.87			51橋							

<点検条件> ~2.3m：地上、 2.1~3.4m：梯子兼用(1.8m)  
3.1~4.0m：脚立専用(3.0m)、4.1~：橋梁点検車

8.4 過去(2015年~2024年)の点検結果一覧表(結果)

上段:2巡目点検結果  
下段:1巡目点検結果

その2

橋梁台帳番号	フリガナ橋梁名	路線名	橋種	橋長(m)	架設年次 ※青字は推定	供用年(年)	橋梁点検日	上部工:損傷評価点				下部工:損傷評価点			支承部:損傷評価点			部材最小健全度	橋梁の健全度	評価対象 径間番号	診断区分	特定損傷		所見
								床版	主構	床版・主構以外	上部工評価点	躯体	基礎	下部工評価点	本体	沓座	支承部評価点					ASR	塩害	
51	ミヤマハシ 深山橋	深水野原線 299(その他)	鋼橋	135.0	1977年3月	48	2021/02	85.24	69.00	83.49	53.89	82.40	100.00	88.21	92.50	100.00	92.50	69.00	43.82	BR-02/P2	予防保全段階II			・上部工の床版Coは、部分的に損傷が発生している程度であるが、前回点検と比較してひびわれの増加・劣化が多少確認できた。 ・主構は全体的に防食機能が劣化しており、部分的に腐食が進行していた。また、鋼部材(主構や支承部)に土砂堆積なども確認できたことから、腐食に対する対策が必要と考えられる。 ・また、アーチリブの接続部でボルトの脱落(前回1箇所→今回3箇所)が生じていた。これはF11Tのボルトが使用されているため、遅れ破壊によるものと考えられる。 ・全体的に腐食が顕在化してきている印象があるため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。
	逆ランガ-桁橋	2016/03	88.00				78.00	91.20	66.64	75.60	100.00	83.65	73.10	21.00	53.35	21.00	38.17	BR-02	予防保全段階II	×	×			
52	タノハシ 竹野橋	深水野原線 299(その他)	コンクリート橋	56.5	1988年8月	36	2021/02	100.00	92.04	100.00	92.04	82.74	100.00	88.44	100.00	100.00	100.00	82.74	85.10	BR-03/P3	予防保全段階II			・上部工の主構(床版)に軽微なひびわれや鉄筋露出・漏水・漏水が確認できた。 ・損傷は全体的に軽微であるが、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。 ・また、今回点検を実施していない廃止道路の橋面には土砂堆積・滞水が生じていたため、廃止道路側についても維持管理が必要と考えられる。
	4径間連続RC床版橋(8径間)	2016/04	100.00				68.90	100.00	68.90	52.60	100.00	68.24	100.00	100.00	100.00	52.60	49.84	BR-01	予防保全段階II	×	×			
53	タノハシ 嶽野橋	深水野原線 299(その他)	コンクリート橋	40.0	1982年10月	42	2021/11	98.37	87.42	100.00	86.12	81.67	100.00	87.72	90.62	100.00	90.62	81.67	75.00	BR-01/A1	予防保全段階II			・床版・主桁には、局所的な剥離鉄筋露出が発生しているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、ひびわれ、漏水・遊離石灰が確認できるが、損傷は軽微である。 ・支承部は、土砂堆積および伸縮からの滞水、経年劣化により防食機能の劣化・腐食が見られ、特にA2橋台はアンカーボルトの腐食が進行しており、防錆処理が必要と思われる。 ・その他、伸縮装置からの漏水、目皿の一部破損については対策が必要である。 ・現時点では支承部本体の防錆処理・伸縮装置の取替え・目皿の取替えが必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。
	単純*ステン桁橋	2018/01	97.72				93.30	100.00	91.48	82.40	100.00	88.21	83.75	100.00	83.75	82.40	77.91	BR-01	予防保全段階II	×	×			
54	タノ2号橋 嶽野2号橋	深水野原線 299(その他)	コンクリート橋	30.5	1987年8月	37	2021/02	94.29	94.97	95.50	89.50	83.82	100.00	89.16	100.00	100.00	100.00	83.82	83.00	BR-01/A1	予防保全段階II			・上部工は、軽微な損傷が確認できる程度である。なお、架設年から鑑みるとPC鋼材は上線定着の可能性が高い。 ・下部工は、遊離石灰(ひびわれ)は、谷側に下部工が沈下している可能性があるため、注視する必要がある。 ・また、橋面に滞水が発生しているため、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。 ・その他、防護柵支柱を固定するナットが外れているため、この部分のみすみやかに補修することが望ましい。
	単純*ステン桁橋	2016/03	96.20				95.00	97.00	91.36	83.80	100.00	89.15	100.00	100.00	100.00	83.80	84.85	BR-01	予防保全段階II	×	×			
55	ヒラハシ 小平橋	深水野原線 299(その他)	コンクリート橋	22.6	1988年5月	36	2021/11	95.60	100.00	98.00	96.08	98.55	100.00	99.03	100.00	100.00	100.00	95.60	95.50	BR-01/A2	健全I			・床版は、軽微なひびわれ・漏水・遊離石灰が点在する程度であるため、経過観察することが望ましい。 ・下部工は、滞水や局所的な遊離石灰の確認程度であるため、現段階では問題ないと思われる。 ・その他、橋面・伸縮・排水施設・防護柵には全体的に軽微な損傷が確認できる。 ・現時点では補修は必要ないが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。
	単純*ステン桁橋	2018/01	99.35				100.00	100.00	99.48	84.55	100.00	89.65	100.00	100.00	100.00	84.55	93.27	BR-01	予防保全段階II	×	×			
56	ハラハシ 野原橋	深水野原線 299(その他)	コンクリート橋	145.0	1988年3月	37	2021/12	99.02	86.64	96.00	85.06	76.32	92.47	76.60	100.00	100.00	100.00	76.32	71.02	BR-03/P2	予防保全段階II			・床版・主桁には、ひびわれ、剥離鉄筋露出、漏水・遊離石灰などが確認できるが、損傷は軽微である。また、箱桁内の頂版・横桁には乾燥収縮によるひびわれ及び遊離石灰が確認できるが、損傷はいずれも軽微である。 ・下部工は、ひびわれおよび剥離鉄筋露出、漏水・遊離石灰、滞水が確認でき、特にP1・P2橋脚は予防保全の観点から、機会を見て補修するのが望ましい。 ・その他、橋面・伸縮・排水施設・防護柵には全体的に軽微な損傷(地覆Coには凍害)が確認できる。 ・現時点ではひびわれのみ補修が必要と思われるが、橋梁規模より予防保全について熟慮する必要がある。
	3径間連続*ステン桁橋	2018/01	92.42				79.67	100.00	73.61	81.32	100.00	87.48	100.00	100.00	100.00	79.67	66.10	BR-01	予防保全段階II	×	×			
57	イザハシ 井沢橋	新村井沢線 301(その他)	BOX橋	2.1	2006年3月	19	2021/11	100.00	99.15	100.00	99.15	97.47	100.00	98.30	100.00	100.00	100.00	97.47	98.13	BR-01/A1-A2	健全I			・頂版と側壁の製品目地に、目地の劣化および舗装クラックからの侵入水が原因と思われる滞水、漏水・遊離石灰が確認でき、側壁にはひびわれが確認できるが、損傷は軽微である。 ・その他、舗装のひびわれが確認できるが、損傷は軽微である。 ・現時点では補修は必要ない。
	プラスチック*ウツカハート	2017/12	100.00				99.15	100.00	99.15	97.47	100.00	98.30	100.00	100.00	100.00	97.47	98.13	BR-01	予防保全段階II	×	×			
58	ハカマ2号橋 袴谷2号橋	袴谷線 304(その他)	コンクリート橋	10.6	2000年12月	24	2022/12	98.37	100.00	100.00	98.70	92.44	100.00	94.93	100.00	100.00	100.00	92.44	95.66	BR-01/A2	健全I			・床版には、局所的な剥離・鉄筋露出が発生しているため、機会を見て補修するのが望ましい。 ・下部工は、乾燥収縮によるひびわれ及び漏水・遊離石灰などが確認できるが、損傷はいずれも軽微である。なお、橋面に土砂詰まり(植生)が発生しているため、維持管理で対応することが望まれる。 ・その他、橋面・防護柵の損傷は軽微であり、維持管理で対応することが望まれる。 ・現時点では補修は必要ない。
	プレテンPC単純スラブ桁橋	2018/04	100.00				98.72	100.00	98.72	78.44	100.00	85.55	100.00	100.00	100.00	78.44	90.05	BR-01/A2	健全I	×	×			
59	サガラハシ 相良大橋	清流川辺川線 305(その他)	コンクリート橋	313.0	1993年2月	32	2021/02	95.60	86.69	95.00	82.17	79.55	100.00	86.30	98.75	100.00	98.75	79.55	73.45	BR-02/P1	予防保全段階II			・上部工の主構(下床版)には、橋軸方向にひびわれが発生しており、下部工は鉛直方向にひびわれが発生していた。ひびわれは初期ひびわれと考えられるが、予防保全の観点から補修を行う方が望ましい。 ・鋼製支承は、腐食が顕在化してきている印象がある。 ・損傷は、全体的に軽微であるが、ひびわれは今後の進行について注視する必要がある。
	1径間*単純中空床版+4径間連続*ステン桁橋	2013/10	100.00				97.52	100.00	97.52	94.30	100.00	96.18	100.00	100.00	100.00	94.30	95.23	BR-02.3/P2	健全I	×	×			
								上段:2巡目の診断区分 下段:1巡目の診断区分 <2巡目の診断区分について> 診断区分は、役場と協議し、診断区分の目安に近づけるように全体的に見直しを図ったため、健全Iが増加した。(今回増えた診断区分のⅢは、R2豪雨による基礎洗掘)										I:健全 II:予防保全段階 III:早期措置段階 IV:緊急措置段階		26橋 10橋 21橋 40橋 3橋 0橋 1橋 0橋		<診断区分の目安>熊本県橋梁長寿命化修繕計画を参考 (次回点検までに措置は行わない。) 80≦HI → I:健全 60≦HI<80 → II:予防保全段階(次回点検までに道路パトロール等による監視を行う。) 20≦HI<60 → III:早期措置段階(次回点検までに補修・補強対策を行う。) HI<20 → IV:緊急措置段階(緊急に補修・補強等の対策を行う。) ※上記は、あくまでも目安とし、協議および後述を踏まえて再考し判断することを基本とする。 (今回の定期点検までの期間に想定される道路橋の状態及び道路橋を取り巻く状況なども勘案するとともに、道路橋の状態の把握やそれらを考慮した点検時点での性能の見立てなども行って、これらを総合的に評価した上で判断を行うことが必要となる。・・・国土交通省道路局「道路橋定期点検要領」令和6年3月より)		
BOX橋:		8橋																						
コンクリート橋:		36橋																						
鋼橋:		7橋																						
合計:		51橋																						

・・・II:予防保全段階    ...III:早期措置段階    ...IV:緊急措置段階